様式第２号の１－①【⑴実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第２号の１－②を用いること。

学校名	神戸大学
設置者名	国立大学法人神戸大学

１．「実務経験のある教員等による授業科目」の数

学部名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数				省令で定める基準単位数	配置困難
			全学共通科目	学部等共通科目	専門科目	合計		
文学部	人文学科	夜・通信	20	-	79	99	13	
国際人間科学部	グローバル文化学科	夜・通信		42	0	62	13	
	発達コミュニティ学科	夜・通信						
	環境共生学科	夜・通信						
	子ども教育学科	夜・通信						
法学部	法律学科	夜・通信		0	27	47	13	
経済学部	経済学科	夜・通信		0	16	36	13	
経営学部	経営学科	夜・通信		0	34	54	13	
理学部	数学科	夜・通信		19	2	41	13	
	物理学科	夜・通信			4	43	13	
	化学科	夜・通信			0	39	13	
	生物学科	夜・通信			2	41	13	
	惑星学科	夜・通信			0	39	13	
医学部	医学科	夜・通信		0	186	206	19	
	保健学科	夜・通信		0	20	40	13	

工学部	建築学科	夜・通信		2	33	55	13	
	市民工学科	夜・通信			0	22	13	
	電気電子工学科	夜・通信			6	28	13	
	機械工学科	夜・通信			2	24	13	
	応用化学科	夜・通信			11	33	13	
	情報知能工学科	夜・通信			6	28	13	
農学部	食料環境システム学科	夜・通信		18	0	38	13	
	資源生命科学科	夜・通信			0	38	13	
	生命機能科学科	夜・通信			0	38	13	
海洋政策科学部	海洋政策科学科	夜・通信		2	98	120	13	
海事科学部	グローバル輸送科学科	夜・通信		0	0	20	13	
	海洋安全システム科学科	夜・通信			0	20	13	
	マリンエンジニアリング学科	夜・通信			0	20	13	
（備考）　海事科学部は、令和３年度より学生募集停止								

２．「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

ウェブサイトにて公表 https://www.office.kobe-u.ac.jp/stdnt-kymsys/student/green/time/jitumu.pdf

３．要件を満たすことが困難である学部等

学部等名
（困難である理由）

様式第２号の２－①【⑵-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第２号の２－②を用いること。

学校名	神戸大学
設置者名	国立大学法人神戸大学

１．理事（役員）名簿の公表方法

ウェブサイトにて公表 https://www.kobe-u.ac.jp/info/organization/president/index.html

２．学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容や期待する役割
非常勤	弁護士	2023 年 4 月 1 日～2025 年 3 月 31 日	
非常勤	川崎重工業株式会社執行役員　マーケティング本部長	2023 年 4 月 1 日～2025 年 3 月 31 日	
（備考）			

様式第２号の３【⑶厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	神戸大学
設置者名	国立大学法人神戸大学

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

１．授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。	
（授業計画書の作成・公表に係る取組の概要） 全授業科目においてシラバスを作成しており、教務情報システムを利用した統一様式によるウェブ化を行い、学内外に周知・公表している。 シラバスの項目は、以下のとおり。 ①基本情報（科目分類、開講年次、時間割コード、開講区分、開講科目名、曜日・時限等、成績入力担当、単位数、授業形態、ナンバリングコード） ②詳細情報（授業のテーマ、授業の到達目標、授業の概要と計画、成績評価方法、成績評価基準、履修上の注意（関連科目情報）、事前・事後学修、オフィスアワー・連絡先、学生へのメッセージ、今年度の工夫、教科書、参考書・参考資料等、授業における使用言語、キーワード、参考 URL） ③担当教員一欄 シラバス作成時期：11 月～3 月中旬 シラバス公表時期：3 月中旬	
授業計画書の公表方法	HP https://www.kobe-u.ac.jp/ja/academics/syllabus/about/
２．学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。	
（授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要） 成績評価基準を学位授与方針及び教育課程方針に則して定められている学修成果の評価の方針と整合性をもって、大学として策定し、学生に周知している。 授業担当教員は、授業計画（シラバス）の「成績評価方法」及び「成績評価基準」に基づき、学生の学修成果を厳格かつ適正に評価している。 なお、すべての学部・研究科において、成績に対する異議申立て制度を組織的に設けており、当該授業科目の「成績評価基準」に照らして疑義がある場合は、学生は成績評価について担当教員に説明を求めることができることとしている。	

３．成績評価において、ＧＰＡ等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。
（客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要） 本学では、「学位授与に関する方針」に掲げる国際的に卓越した教育を保証し、「単位の実質化」を進めるため、平成 24 年度入学生から「ＧＰＡ（Grade Point Average）」を通知することとした。 「ＧＰＡ」は、「成績評価基準」（秀、優、良、可、不可）に基づいて評価した成績の単位数に、それぞれのＧＰ（Grade Point）を掛けて合計したものを、履修登録を行った単位数の合計で割って計算した、１単位あたりのＧＰ平均値（Average）である。 成績評価及び「ＧＰＡ」は学期毎に学生に通知している。 学生は、通知されたＧＰＡにより、学期毎及び在学中の成績評価の平均値を確認し、学習成果の指標とすることができる。 成績評価とＧＰＡは、学生自ら「うりぼーネット」（Ｗｅｂ）で確認できるようにしている。 成績の分布状況については、各教育課程及び全学教務委員会において、組織的に確認している。

客観的な指標の算出方法の公表方法	ウェブサイトにて公表 https://www.uriboportal.ofc.kobe-u.ac.jp/

４．卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。
（卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要） 神戸大学は、開放的で国際性に富む固有の文化の下、「真摯・自由・協同」の精神を発揮し、個性輝く人間性豊かな指導的人材の育成を通して、学問の発展、人類の幸福、地球環境の保全及び世界の平和に貢献することを目指している。 この目標達成に向け、本学では、「教育憲章」に基づき、教育課程を通じて授与する学位に関して、学部及び大学院において国際的に卓越した教育を保証するため、以下に示した２ つの方針に従って当該学位を授与する。 ・学部あるいは研究科に所定の期間在学し、卒業並びに修了に必要な単位を修得し、当該学部あるいは研究科が定める審査に合格する。 ・卒業あるいは修了までに、本学学生が、それぞれの課程を通じて身につけるべき能力を次のとおりとする。 「人間性」 豊かな教養と高い倫理性をそなえ、知性、理性及び感性が調和し、自立した社会人として行動できるようになるため、次の２つの能力を身につける。 ・様々な場面において、状況を適切に把握し主体的に判断する力 ・専門性や価値観を異にする人々と協働して課題解決にあたるチームワーク力 「創造性」 伝統的な思考や方法を批判的に継承し、自ら課題を設定して創造的に解決できるようになるため、次の２つの能力を身につける。 ・他の学問分野の基本的なものの考え方を学び、自らの専門分野との違いを理解する力 ・能動的に学び、新たな発想を生み出す力 「国際性」 多様な価値観を尊重し、多文化社会のより深い理解に努め、優れたコミュニケーション能力を発揮できるようになるため、次の２つの能力を身につける。 ・複数の言語で異なる文化の人々と意思を通じ合うことができる力 ・文化、思想、価値観の多様性を受容し、地球的課題を理解する力 「専門性」 それぞれの職業や学問分野において指導的役割を担えるように、学士課程にあっては、幅広い知識とそれを基盤とした専門的能力を、また大学院の各教育課程にあっては、深い学識と高度で卓越した専門的能力を身につける。 それぞれの課程で身につける専門的能力は各学部・研究科が定める。 卒業の認定に関する方針は、HP で公表している。

卒業の認定に関する方針の公表方法	ウェブサイトにて公表 https://www.kobe-u.ac.jp/ja/academics/policy/diploma/

様式第２号の４－①【⑷財務・経営情報の公表（大学・短期大学・高等専門学校）】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第２号の４－②を用いること。

学校名	神戸大学
設置者名	国立大学法人神戸大学

１．財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	https://www.kobe-u.ac.jp/ja/about/public-information/disclosure/law22/zaimu/
収支計算書又は損益計算書	https://www.kobe-u.ac.jp/ja/about/public-information/disclosure/law22/zaimu/
財産目録	―
事業報告書	https://www.kobe-u.ac.jp/ja/about/public-information/disclosure/law22/zaimu/
監事による監査報告（書）	https://www.kobe-u.ac.jp/ja/about/public-information/disclosure/law22/zaimu/

２．事業計画（任意記載事項）

単年度計画 名称：国立大学法人神戸大学年度計画 対象年度：平成 16 年度～令和 3 年度
公表方法：ウェブサイトにて公表 （https://www.kobe-u.ac.jp/info/project/plan/indexH21.html）総務課
中長期計画 名称：　国立大学法人神戸大学の中期目標を達成するための計画（中期計画） 対象年度：平成 16 年度～
公表方法：ウェブサイトにて公表 （https://www.kobe-u.ac.jp/info/project/plan/index.html）

３．教育活動に係る情報

（１）自己点検・評価の結果

公表方法：ウェブサイトにて公表 （https://www.kobe-u.ac.jp/info/project/evaluation/index.html）

（２）認証評価の結果（任意記載事項）

公表方法：ウェブサイトにて公表 （https://www.kobe-u.ac.jp/info/project/evaluation/attestation.html）

（３）学校教育法施行規則第 172 条の２第１項に掲げる情報の概要

① 教育研究上の目的、卒業又は修了の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名　文学部
教育研究上の目的（公表方法：HP https://www.kobe-u.ac.jp/ja/about/public-information/education/purpose/）
（概要） 本学部は、広い知識を授けるとともに、言葉及び文化、人間の行動並びに歴史及び社会に関する教育研究を行い、人間文化及び現代社会に対する深い教養、専門的知識、柔軟な思考力並びに豊かな表現能力を有する人材を養成することを目的とする。
卒業又は修了の認定に関する方針 （公表方法：HP https://www.kobe-u.ac.jp/ja/academics/policy/）
（概要） 神戸大学文学部は、人類の文化的営みの蓄積としての人文学を、古典を通して深く理解するとともに、社会的対話によりそれを実践して行く能力を身につけ、現代社会において活躍できる人材を育成することを目的としている。また、徹底した少人数教育により、個々の学生の好奇心に応え、自ら問題を設定し、解決するスキルを学生に伝授することを目的としている。 この目的を達成するため、以下に示した方針に従って学士の学位を授与する。 **学位：学士（文学）** 神戸大学のディプロマ・ポリシーにもとづき、文学部は以下に示した方針に従って当該学位を授与する。 ・本学部に 4 年以上在学し、履修要件として定めた所定の単位以上（卒業論文を含む）を習得すること。卒業論文の単位取得のためには、指定の期日までに卒業論文を提出し、卒業論文試験に合格することを要する。 ・神戸大学のディプロマ・ポリシーに定める能力に加え、卒業までに、本学部学生が身につけるべき能力を次のとおりとする。 o 「人間性」 ・人文学に関わる課題について自ら主体的に学び、協働して解決することができる能力 o 「創造性」 ・人文学の意義と重要性を理解し、複眼的に思考することで、人文学の発展に貢献することができる能力 o 「国際性」 ・異なる文化によって育まれた多様性を理解・受容し、必要な外国語でコミュニケーションをはかる能力 o 「専門性」

・自らの好奇心を学問的に問題化し検証する訓練を積むことを通じて、人文学の幅広い知識を獲得する能力
・人類の知的営みの蓄積である古典を通じた人文学共通の問題・課題についての理解力
・文化・言語・学域の壁を越えた意思疎通および連携を可能にする社会的対話力
・固有の学問的課題を知の普遍的課題に位置づける深い洞察力

教育課程の編成及び実施に関する方針
（公表方法：HP https://www.kobe-u.ac.jp/ja/academics/policy/ ）

（概要）
神戸大学のカリキュラム・ポリシーにもとづき、文学部は以下の方針に則りカリキュラムを編成する。

１．「人間性」「創造性」「国際性」を学生に身につけさせるため、すべての学生が履修する共通の科目として、基礎教養科目、総合教養科目、高度教養科目、外国語科目、初年次セミナー、キャリア科目、情報科目、健康・スポーツ科学及びその他必要と認める科目を開設する。
２．人類の文化的営みの蓄積としての人文学を、古典を通して深く理解するとともに、社会的対話により、それを実践することを通じて人文学的素養を涵養し、「専門性」を学生に身につけさせるため、以下の専門科目及びその他必要と認める科目を開設する。
・自らの好奇心を学問的に問題化し検証する訓練を積み、幅広い知識を身につけることができるように初年次セミナー、専門科目基礎科目、高度教養科目を開設する。
・人類共通の叡智の蓄積である古典を通して人文学共通の問題・課題を発見できる理解力を身につけることができるように専門科目基礎科目、専門科目、グローバル科目を開設する。
・文化・言語・学域の壁を越えた意思疎通および連携を可能にする社会的対話力を身につけることができるように専門科目、ＥＳＤ科目、グローバル科目を開設する。
・固有の学問的課題を知の普遍的課題に位置づけられる洞察力を身につけることができるように卒業論文、卒業論文関連科目を開設する。

なお、これらの科目は、講義・演習・実習等の授業形態に応じて、アクティブラーニング、体験型学修などを適宜組み合わせて行う。
学修成果の評価は、次の方法で行う。
・講義科目については、筆記試験、レポート、参加度等により、学修目標に即して多元的、包括的な方法で到達度を判定する。
・演習・実験・実習及び実技科目については、筆記試験、レポート、参加度、発表内容、実技等により、学修目標に即して多元的、包括的な方法で到達度を判定する。

入学者の受入れに関する方針
（公表方法：HP https://www.kobe-u.ac.jp/campuslife/edu/policy/index.html）

（概要）
　文学部では、人間がつくり上げてきた文化に対する好奇心を高め、多様な角度から人間存在の深みに光をあてる教育研究を行っています。各自の好奇心を学問的に問題化し検証する訓練を積むことで、人文学の幅広い知識と深い洞察力を身につけた人を育成することを目標にしています。そのために、次のような学生を求めています。

●文学部の求める学生像
１．みずみずしい感受性と想像力を持っている学生
　　〔求める要素：思考力・判断力・表現力、関心・意欲〕
２．言葉や文化、人間の行動、歴史や社会に対する幅広い関心と好奇心を持っている学生
　　〔求める要素：知識・技能、思考力・判断力・表現力、関心・意欲〕
３．基礎学力、とりわけ論理的思考力、日本語および外国語の読解力・表現力、情報リテラシーをそなえている学生
　　〔求める要素：知識・技能、思考力・判断力・表現力〕
４．既成の価値観にとらわれることなく、自分で問題を発見し、探求していくことができる学生
　　〔求める要素：思考力・判断力・表現力、主体性・協働性、関心・意欲〕

　※高等学校等で修得しておいてもらいたい内容
　「国語」：文章を読み解く力、的確に表現する力。
　「地歴・公民」：幅広い視野と総合的な知識、様々な社会現象を分析し捉える力。
　「数学」：数学的に思考し、表現する力。
　「理科」：自然を科学的に理解する力。
　「英語」：外国語の読解力と表現力、外国語によるコミュニケーション能力。
　「情報」：情報を科学的に理解する力と活用する力。

●入学者選抜の基本方針
　以上のような学生を選抜するために、文学部のディプロマ・ポリシーおよびカリキュラム・ポリシーを踏まえ、一般選抜では、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」を測ります。

学部等名　国際人間科学部
教育研究上の目的 （公表方法：HP https://www.kobe-u.ac.jp/ja/about/public-information/education/purpose/）
（概要） 　本学部は、グローバルイシューを深い人間理解と他者への共感をもって解決し、「グローバル共生社会」の実現に貢献する「協働型グローバル人材」を養成することを目的とする。
卒業又は修了の認定に関する方針 （公表方法：HP https://www.kobe-u.ac.jp/ja/academics/policy/）

（概要）
神戸大学国際人間科学部は、グローバルイシュー（現代社会が地球規模での協働を通して取り組まなければならない課題）を深い人間理解と他者への共感をもって解決し、世界の人々が多様な境界線を越えて共存できる「グローバル共生社会」の実現に貢献する「協働型グローバル人材」を養成することを目的としている。
この目的を達成するため、以下に示した方針に従って学士の学位を授与する。

学位：学士（学術）

グローバル文化学科
神戸大学のディプロマ・ポリシーにもとづき、国際人間科学部グローバル文化学科は、以下に示した方針に従って当該学位を授与する。
・本学部に４年以上在学し、履修要件として定めた所定の単位以上を履修すること。
・神戸大学のディプロマ・ポリシーに定める能力に加え、卒業までに、本学科学生が身につけるべき能力を次のとおりとする。
・グローバルイシューを構成する諸課題を発見する批判的・合理的思考力
・外国語や ICT を使いこなす多様なコミュニケーション能力と情報収集・分析能力
・グローバルイシューを異文化理解の観点から理解する能力
・グローバルイシューの解決に向けて、他者と協働しつつ、リーダーシップを発揮する行動力
・グローバル文化形成、グローバル社会動態、グローバル・コミュニケーションに関する幅広い知識と専門的能力

発達コミュニティ学科
神戸大学のディプロマ・ポリシーにもとづき、国際人間科学部発達コミュニティ学科は、以下に示した方針に従って当該学位を授与する。
・本学部に４年以上在学し、履修要件として定めた所定の単位以上を履修すること。
・神戸大学のディプロマ・ポリシーに定める能力に加え、卒業までに、本学科学生が身につけるべき能力を次のとおりとする。
・グローバルイシューを構成する諸課題を発見する批判的・合理的思考力
・外国語や ICT を使いこなす多様なコミュニケーション能力と情報収集・分析能力
・グローバルイシューを人間発達及び人間科学の観点から理解する能力
・グローバルイシューの解決に向けて、他者と協働しつつ、リーダーシップを発揮する行動力
・発達基礎、コミュニティ形成に関する幅広い知識と専門的能力

環境共生学科
神戸大学のディプロマ・ポリシーにもとづき、国際人間科学部環境共生学科は、以下に示した方針に従って当該学位を授与する。
・本学部に４年以上在学し、履修要件として定めた所定の単位以上を履修すること。
・神戸大学のディプロマ・ポリシーに定める能力に加え、卒業までに、本学科学生が身につけるべき能力を次のとおりとする。
・グローバルイシューを構成する諸課題を発見する批判的・合理的思考力
・外国語や ICT を使いこなす多様なコミュニケーション能力と情報収集・分析能力
・グローバルイシューを環境共生の観点から理解する能力
・グローバルイシューの解決に向けて、他者と協働しつつ、リーダーシップを発

揮する行動力
・環境基礎科学、環境形成科学に関する幅広い知識と専門的能力

子ども教育学科
神戸大学のディプロマ・ポリシーにもとづき、国際人間科学部子ども教育学科は、以下に示した方針に従って当該学位を授与する。
・本学部に４年以上在学し、履修要件として定めた所定の単位以上を履修すること。
・神戸大学のディプロマ・ポリシーに定める能力に加え、卒業までに、本学科学生が身につけるべき能力を次のとおりとする。
・グローバルイシューを構成する諸課題を発見する批判的・合理的思考力
・外国語やICTを使いこなす多様なコミュニケーション能力と情報収集・分析能力
・グローバルイシューを人間発達及び次世代育成の観点から理解する能力
・グローバルイシューの解決に向けて、他者と協働しつつ、リーダーシップを発揮する行動力
・学校教育学、乳幼児教育学に関する幅広い知識と専門的能力

学位：学士（教育学）

子ども教育学科
神戸大学のディプロマ・ポリシーにもとづき、国際人間科学部子ども教育学科は、以下に示した方針に従って当該学位を授与する。
・本学部に４年以上在学し、履修要件として定めた所定の単位以上を履修すること。
・神戸大学のディプロマ・ポリシーに定める能力に加え、卒業までに、本学科学生が身につけるべき能力を次のとおりとする。
・グローバルイシューを構成する諸課題を発見する批判的・合理的思考力
・外国語やICTを使いこなす多様なコミュニケーション能力と情報収集・分析能力
・グローバルイシューを人間発達及び次世代育成の観点から理解する能力
・現代社会の文化的多様性を尊重したより実践的な子ども教育に取り組む能力
・グローバルイシューの解決に向けて、他者と協働しつつ、リーダーシップを発揮する行動力
・学校教育学、乳幼児教育学に関する幅広い知識と専門的能力

教育課程の編成及び実施に関する方針
（公表方法：HP https://www.kobe-u.ac.jp/ja/academics/policy/）

（概要）
〇学位：学士（学術）
・グローバル文化学科
神戸大学のカリキュラム・ポリシーにもとづき、国際人間科学部グローバル文化学科は以下の方針に則りカリキュラムを編成する。

１．「人間性」「創造性」「国際性」を学生に身につけさせるため、すべての学生が履修する共通の科目として、基礎教養科目、総合教養科目、高度教養科目、外国語科目、初年次セミナー、キャリア科目、情報科目、健康・スポーツ科目及びその他必要と認める科目を開設する。
２．深い学識を涵養し、「専門性」を学生に身につけさせるため、以下の専門科目を開設する（共通専門基礎科目及び学部が開設する高度教養科目を含む）。
・グローバルイシューに対する批判的・合理的思考力や人々と協働できるリーダーシップ、外国語やICT を使いこなすコミュニケーション能力と情報を収集し

分析する能力を身につけることができるよう学部共通基礎科目を開設する。
・グローバルイシューを構成する諸課題を発見するため、多様な情報を収集し分析する能力、外国語や ICT を一層自在に駆使するコミュニケーション能力を身につけることができる学部共通発展科目を開設する。
・グローバルイシューの解決に向けて他者と協働しつつリーダーシップを発揮する行動力を身につけることができるグローバル・スタディーズ・プログラム科目を開設する。
・グローバルイシューを異文化理解の観点から理解するために必要な基礎的知識及び外国語のコミュニケーション能力を身につけることができる学科共通科目を開設する。
・グローバル文化形成、グローバル社会動態、グローバル・コミュニケーションに関する中核的な知識と専門的能力を身につけることができる学科コア科目を開設する。
・グローバル文化形成、グローバル社会動態、グローバル・コミュニケーションに関する発展的な知識と専門的能力を身につけることができる学科展開科目を開設する。

なお、これらの科目を実施するに当たり、講義、演習、実習等の授業形態に応じて、アクティブラーニングや体験型学修を適宜組み込み、少人数対話型教育を積極的に推進する。また、グローバル・スタディーズ・プログラムでは、海外研修とフィールド学修を組み合わせる。

学修成果の評価は、次の方法で行う。
・講義科目については、筆記試験、レポート、参加度等により、学修目標に即して多元的、包括的な方法で到達度を判定する。
・演習、実習科目等については、筆記試験、レポート、参加度、発表内容、実技等により、学修目標に即して多元的、包括的な方法で到達度を判定する。

・発達コミュニティ学科

神戸大学のカリキュラム・ポリシーにもとづき、国際人間科学部発達コミュニティ学科は以下の方針に則りカリキュラムを編成する。

１．「人間性」「創造性」「国際性」を学生に身につけさせるため、すべての学生が履修する共通の科目として、基礎教養科目、総合教養科目、高度教養科目、外国語科目、初年次セミナー、キャリア科目、情報科目、健康・スポーツ科目及びその他必要と認める科目を開設する。
２．深い学識を涵養し、「専門性」を学生に身につけさせるため、以下の専門科目を開設する（共通専門基礎科目及び学部が開設する高度教養科目を含む）。
・グローバルイシューに対する批判的・合理的思考力や人々と協働できるリーダーシップ、外国語や ICT を使いこなすコミュニケーション能力と情報を収集し分析する能力を身につけることができるよう学部共通基礎科目を開設する。
・グローバルイシューを構成する諸課題を発見するため、多様な情報を収集し分析する能力、外国語や ICT を一層自在に駆使するコミュニケーション能力を身につけることができる学部共通発展科目を開設する。
・グローバルイシューの解決に向けて他者と協働しつつリーダーシップを発揮する行動力を身につけることができるグローバル・スタディーズ・プログラム科目を開設する。
・グローバルイシューを人間発達及び人間科学の観点から理解する能力を身につけることができる学科共通科目を開設する。
・発達基礎、コミュニティ形成に関する中核的な専門知識を身につけることがで

きる学科コア科目を開設する。
・発達基礎、コミュニティ形成に関する発展的な専門知識を身につけることができる学科展開科目を開設する。

なお、これらの科目を実施するに当たり、講義、演習、実習等の授業形態に応じて、アクティブラーニングや体験型学修を適宜組み込み、少人数対話型教育を積極的に推進する。また、グローバル・スタディーズ・プログラムでは、海外研修とフィールド学修を組み合わせる。
学修成果の評価は、次の方法で行う。
・講義科目については、筆記試験、レポート、参加度等により、学修目標に即して多元的、包括的な方法で到達度を判定する。
・演習、実習科目等については、筆記試験、レポート、参加度、発表内容、実技等により、学修目標に即して多元的、包括的な方法で到達度を判定する。

・環境共生学科
神戸大学のカリキュラム・ポリシーにもとづき、国際人間科学部環境共生学科は以下の方針に則りカリキュラムを編成する。

１．「人間性」「創造性」「国際性」を学生に身につけさせるため、すべての学生が履修する共通の科目として、基礎教養科目、総合教養科目、高度教養科目、外国語科目、初年次セミナー、キャリア科目、情報科目、健康・スポーツ科目及びその他必要と認める科目を開設する。
２．深い学識を涵養し、「専門性」を学生に身につけさせるため、以下の専門科目を開設する（共通専門基礎科目及び学部が開設する高度教養科目を含む）。
・グローバルイシューに対する批判的・合理的思考力や人々と協働できるリーダーシップ、外国語や ICT を使いこなすコミュニケーション能力と情報を収集し分析する能力を身につけることができるよう学部共通基礎科目を開設する。
・グローバルイシューを構成する諸課題を発見するため、多様な情報を収集し分析する能力、外国語や ICT を一層自在に駆使するコミュニケーション能力を身につけることができる学部共通発展科目を開設する。
・グローバルイシューの解決に向けて他者と協働しつつリーダーシップを発揮する行動力を身につけることができるグローバル・スタディーズ・プログラム科目を開設する。
・環境基礎科学及び環境形成科学に関する基礎的な知識を身につけることができる共通専門基礎科目を開設する。
・グローバルイシューを環境共生の観点から理解する能力を身につけることができる学科共通科目を開設する。
・環境共生に関する課題を発見するために必要な中核的な専門的能力を身につけることができる学科コア科目を開設する。
・環境共生に関する課題を解決するために必要な発展的な専門的能力を身につけることができる学科展開科目を開設する。

なお、これらの科目を実施するに当たり、講義、演習、実習等の授業形態に応じて、アクティブラーニングや体験型学修を適宜組み込み、少人数対話型教育を積極的に推進する。また、グローバル・スタディーズ・プログラムでは、海外研修とフィールド学修を組み合わせる。
学修成果の評価は、次の方法で行う。
・講義科目については、筆記試験、レポート、参加度等により、学修目標に即して多元的、包括的な方法で到達度を判定する。

・演習、実習科目等については、筆記試験、レポート、参加度、発表内容、実技等により、学修目標に即して多元的、包括的な方法で到達度を判定する。

・子ども教育学科

神戸大学のカリキュラム・ポリシーにもとづき、国際人間科学部子ども教育学科は以下の方針に則りカリキュラムを編成する。

１．「人間性」「創造性」「国際性」を学生に身につけさせるため、すべての学生が履修する共通の科目として、基礎教養科目、総合教養科目、高度教養科目、外国語科目、初年次セミナー、キャリア科目、情報科目、健康・スポーツ科目及びその他必要と認める科目を開設する。

２．深い学識を涵養し、「専門性」を学生に身につけさせるため、以下の専門科目を開設する（共通専門基礎科目及び学部が開設する高度教養科目を含む）。

・グローバルイシューに対する批判的・合理的思考力や人々と協働できるリーダーシップ、外国語や ICT を使いこなすコミュニケーション能力と情報収集し分析する能力を身につけることができるよう学部共通基礎科目を開設する。

・グローバルイシューを構成する諸課題を発見するため、多様な情報を収集し分析する能力、外国語や ICT を一層自在に駆使するコミュニケーション能力を身につけることができる学部共通発展科目を開設する。

・グローバルイシューの解決に向けて他者と協働しつつリーダーシップを発揮する行動力を身につけることができるグローバル・スタディーズ・プログラム科目を開設する。

・グローバルイシューを人間発達及び次世代育成の観点から理解する能力を身につけることができる学科共通科目を開設する。

・学校教育学、乳幼児教育学に関する課題を発見するために必要な知識と中核的な専門的能力を身につけることができる学科コア科目を開設する。

・学校教育学、乳幼児教育学に関する課題を解決するために必要な知識と発展的な専門的能力を身につけることができる学科展開科目を開設する。

なお、これらの科目を実施するに当たり、講義、演習、実習等の授業形態に応じて、アクティブラーニングや体験型学修を適宜組み込み、少人数対話型教育を積極的に推進する。また、グローバル・スタディーズ・プログラムでは、海外研修とフィールド学修を組み合わせる。

学修成果の評価は、次の方法で行う。

・講義科目については、筆記試験、レポート、参加度等により、学修目標に即して多元的、包括的な方法で到達度を判定する。

・演習、実習科目等については、筆記試験、レポート、参加度、発表内容、実技等により、学修目標に即して多元的、包括的な方法で到達度を判定する。

〇学位：学士（教育学）

・子ども教育学科

神戸大学のカリキュラム・ポリシーにもとづき、国際人間科学部子ども教育学科は以下の方針に則りカリキュラムを編成する。

１．「人間性」「創造性」「国際性」を学生に身につけさせるため、すべての学生が履修する共通の科目として、基礎教養科目、総合教養科目、高度教養科目、外国語科目、初年次セミナー、キャリア科目、情報科目、健康・スポーツ科目及びその他必要と認める科目を開設する。

２．深い学識を涵養し、「専門性」を学生に身につけさせるため、以下の専門科目

を開設する（共通専門基礎科目及び学部が開設する高度教養科目を含む）。

・グローバルイシューに対する批判的・合理的思考力や人々と協働できるリーダーシップ、外国語やICT を使いこなすコミュニケーション能力と情報を収集し分析する能力を身につけることができるよう学部共通基礎科目を開設する。
・グローバルイシューを構成する諸課題を発見するため、多様な情報を収集し分析する能力、外国語やICT を一層自在に駆使するコミュニケーション能力を身につけることができる学部共通発展科目を開設する。
・グローバルイシューの解決に向けて他者と協働しつつリーダーシップを発揮する行動力を身につけることができるグローバル・スタディーズ・プログラム科目を開設する。
・グローバルイシューを人間発達及び次世代育成の観点から理解する能力を身につけることができる学科共通科目を開設する。
・学校教育学、乳幼児教育学に関する課題を発見するために必要な知識と中核的な専門的能力を身につけることができる学科コア科目を開設する。
・学校教育学、乳幼児教育学に関する課題を、文化的多様性を尊重した実践的教育の観点から解決するために必要な知識と発展的な専門的能力を身につけることができる学科展開科目を開設する。

なお、これらの科目を実施するに当たり、講義、演習、実習等の授業形態に応じて、アクティブラーニングや体験型学修を適宜組み込み、少人数対話型教育を積極的に推進する。また、グローバル・スタディーズ・プログラムでは、海外研修とフィールド学修を組み合わせる。

学修成果の評価は、次の方法で行う。

・講義科目については、筆記試験、レポート、参加度等により、学修目標に即して多元的、包括的な方法で到達度を判定する。
・演習、実習科目等については、筆記試験、レポート、参加度、発表内容、実技等により、学修目標に即して多元的、包括的な方法で到達度を判定する。

入学者の受入れに関する方針
（公表方法：HP https://www.kobe-u.ac.jp/campuslife/edu/policy/index.html）

（概要）

国際人間科学部では、グローバル社会で生起する環境、災害、民族、宗教、経済格差、人権、教育、社会福祉等に関わる諸課題を深い人間理解と他者への共感をもって解決し、世界の人々が多様な境界線を越えて共存できる「グローバル共生社会」の実現に貢献する「協働型グローバル人材」を養成することを目的としています。そのために、次のような学生を求めています。

●国際人間科学部の求める学生像

１．現代社会の諸問題を発見し、その問題を多面的にとらえて考察し、自分の考えをまとめる基礎的な能力を有する学生
〔求める要素：知識・技能、思考力・判断力・表現力〕

２．異なる考え方や文化を尊重し、共感をもって、積極的にコミュニケーションを行う資質を有する学生
〔求める要素：知識・技能、思考力・判断力・表現力、主体性・協働性、関心・意欲〕

３．国内外の様々な人と連携・協働して、地球規模で問題を解決し、社会に貢献しようとする意欲を持つ学生
〔求める要素：主体性・協働性、関心・意欲〕

※高等学校等で修得しておいてもらいたい内容

「国語」：読解力、コミュニケーション力、表現力。
「地歴・公民」：幅広く総合的な知識、様々な社会現象を捉える分析力。
「数学」：数学的な表現力・総合力、論理的思考力。
「理科」：自然科学の総合的理解力、論理的思考力。
「英語」：読解力、コミュニケーション力、表現力。
「情報」：情報を科学的に理解する力と活用する力。

●入学者選抜の基本方針
以上のような学生を選抜するために、国際人間科学部のディプロマ・ポリシーおよびカリキュラム・ポリシーを踏まえ、一般選抜では、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」を測ります。

学部等名　法学部
教育研究上の目的 （公表方法：HP https://www.kobe-u.ac.jp/ja/about/public-information/education/purpose/）
（概要） 本学部は、広く知識を授けるとともに、法学・政治学の教育研究を行い、幅広い教養及び法学・政治学の専門的知識を身につけ、ますます高度に専門化した社会における要請に対応しうる問題解決能力を有する人材及び急激に進展しつつある国際的環境のもと、法的・政治的な領域について国際的な貢献を行う能力を有する人材を養成することを目的とする。
卒業又は修了の認定に関する方針 （公表方法：HP https://www.kobe-u.ac.jp/ja/academics/policy/）
（概要） 神戸大学法学部は、幅広い教養と法学・政治学的素養を備え、現代社会における専門的要請に対応し得る問題解決能力を身につけ、将来、法学・政治学の領域において活躍できる人材を育成することを目的としている。 この目的を達成するため、以下に示した方針に従って学士の学位を授与する。 **学位：学士（法学）** 神戸大学のディプロマ・ポリシーにもとづき、法学部は以下に示した方針に従って当該学位を授与する。 ・本学部に所定の期間在学し、履修要件として定めた所定の単位以上を修得すること。 ・神戸大学のディプロマ・ポリシーに定める能力に加え、卒業までに、本学部学生が、身につけるべき能力を次のとおりとする。 ・法学に関する幅広い知識とこれを基盤とした専門的能力 ・政治学に関する幅広い知識とこれを基盤とした専門的能力 ・多様な価値観を尊重し、法的・政治的領域の課題を適切に把握する能力 ・問題解決のために、幅広い思考により新たな発想を生み出す能力
教育課程の編成及び実施に関する方針 （公表方法：HP https://www.kobe-u.ac.jp/ja/academics/policy/）

（概要）
神戸大学のカリキュラム・ポリシーにもとづき、法学部は以下の方針に則りカリキュラムを編成する。

１．「人間性」「創造性」「国際性」を学生に身につけさせるため、すべての学生が履修する共通の科目として、基礎教養科目、総合教養科目、高度教養科目、外国語科目、初年次セミナー、情報科目、及びその他必要と認める科目を開設する。
２．深い学識を涵養し、「創造性」「国際性」「専門性」を学生に身につけさせるため、以下の専門科目を開設する。（学部が開設する高度教養科目を含む。）
・法学に関する幅広い知識とこれを基盤とした専門的能力を身につけることができるよう、入門科目、基本法律科目A、基本法律科目B、展開・発展科目、基礎法科目、法社会学科目、国際法科目、演習科目、応用法律科目、共通科目を開設する。
・政治学に関する幅広い知識とこれを基盤とした専門的能力を身につけることができるよう、入門科目、政治・国際関係論科目、演習科目、応用研究科目、共通科目を開設する。
・多様な価値観を尊重し、法的・政治的領域の課題を適切に把握する能力を身につけることができるよう、基礎法科目、展開・発展科目、国際法科目、政治・国際関係論科目、外国書講読科目、共通科目、高度教養科目を開設する。
・問題解決のために、幅広い思考により新たな発想を生み出す能力を身につけることができるよう、基礎科目、演習科目、応用研究科目、応用法律科目、共通科目を開設する。

なお、これらの科目は、講義・演習等の授業形態に応じて、アクティブラーニング、体験型学習などを適宜組み合わせて行う。
学修成果の評価は、次の方法で行う。

・講義科目については、筆記試験、レポート、参加度等により、学修目標に即して多元的、包括的な方法で到達度を判定する。
・演習科目については、筆記試験、レポート、参加度、発表内容、実技等により、学修目標に即して多元的、包括的な方法で到達度を判定する。

入学者の受入れに関する方針
（公表方法：HP https://www.kobe-u.ac.jp/campuslife/edu/policy/index.html）

（概要）
法学部では、幅広い教養と法学・政治学的素養とをそなえ、高度に専門化した社会における要請に対応し得る問題解決能力を身につけた人材および急激に進展しつつある国際的環境のなかで法的・政治的な領域における国際的な貢献を行う能力を有する人材の育成を目標として、次のような学生を求めています。

●法学部の求める学生像
１．社会科学特有の一般的教養・知識を有し、その上で特に、日本語文章の読解・表現、外国語の理解・使用および理論的・数理的な思考に関する優れた能力を有する学生
〔求める要素：知識・技能、思考力・判断力・表現力〕
２．それらの能力を活用しつつ広く法学・政治学の専門的知識を修得する意欲に富む学生
〔求める要素：知識・技能、主体性・協働性、関心・意欲〕
３．国際的な領域での活躍を希望し、幅広い視野のもとで法学・政治学の専門的知識を

積極的に活かそうとする学生
〔求める要素：知識・技能、主体性・協働性、関心・意欲〕

※高等学校等で修得しておいてもらいたい内容
「国語」：読解力、コミュニケーション力、表現力、論理的思考力。
「地歴・公民」：社会に関する総合的な知識、様々な社会現象を捉える分析力。
「数学」：数学的思考力、表現力。
「理科」：自然科学の総合的理解力、論理的思考力。
「英語」：読解力、コミュニケーション力、表現力。
「情報」：情報を科学的に理解する力と活用する力。

●入学者選抜の基本方針
以上のような学生を選抜するために、法学部のディプロマ・ポリシーおよびカリキュラム・ポリシーを踏まえ、一般選抜では、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」を測ります。

学部等名　経済学部
教育研究上の目的 （公表方法：HP https://www.kobe-u.ac.jp/ja/about/public-information/education/purpose/）
（概要） 本学部は、広く知識を授けるとともに、経済学に関する人類の知見を継承し、創造的に発展させることを通じて、豊かな人間性を涵養する教育研究を行い、経済学を中心とした広範な学問分野における高い専門性及び論理的思考力を持つ人材、幅広い教養及び協同の精神を有し、広く社会に貢献する人材並びに国際的な視野を持ち、世界で活躍できる人材を養成することを目的とする。
卒業又は修了の認定に関する方針 （公表方法：HP https://www.kobe-u.ac.jp/ja/academics/policy/）
（概要） 神戸大学経済学部は、経済社会に関する人類の知見を継承し、創造的に発展させることを通じて、豊かな人間性を涵養する教育研究を行う。そして、グローバル化した社会で生じる問題の発見と解決への様々な要請に応えるべく、経済学を中心とした広範な学問分野における高い専門性及び論理的思考力を持ち、幅広い教養及び協同の精神を有する人材を養成することを目的とする。 この目的を達成するため、以下に示した方針に従って学士の学位を授与する。 **学位：学士（経済学）** 神戸大学のディプロマ・ポリシー、ならびに神戸高等商業学校以来の「真摯・自由・協同」の精神に基づき、経済学部は以下に示した方針に従って当該学位を授与する。 1. 本学部に所定の期間以上在学し、履修要件として定めた所定の単位以上を修得すること。 2. 神戸大学のディプロマ・ポリシーに定める能力に加え、卒業までに本学部学生が身につけるべき能力を次のとおりとする。 ・論理的・数理的に思考する能力 ・社会において生じている事象を的確に分析し、その事象を解明できる能力

・分析、解明したことを総合し、的確に表現できる能力

教育課程の編成及び実施に関する方針
（公表方法：HP https://www.kobe-u.ac.jp/ja/academics/policy/）

（概要）
神戸大学のカリキュラム・ポリシーに基づき、経済学部は以下の方針に則りカリキュラムを編成する。

１．「人間性」「創造性」「国際性」を学生に身につけさせるため、すべての学生が履修する共通の科目として、基礎教養科目、総合教養科目、高度教養科目、外国語科目、初年次セミナー、キャリア科目、情報科目、健康・スポーツ科学及びその他必要と認める科目を開設する。
２．深い学識を涵養し、「専門性」を学生に身につけさせるため、以下の専門科目を開設する。（共通専門基礎科目及び学部が開設する高度教養科目を含む）
・経済学の「専門性」を体系的に身につけるために、基礎的な専門的知識・能力の習得をめざす1 年生向け基礎演習、初級経済学、経済史、統計学、経済倫理と思想等の必須科目を履修した上で、高度な知識・能力をめざす専門科目、上級科目を履修する段階的カリキュラムとする。
・論理的・数理的に思考する能力を身につけるために中級ミクロ経済学、中級マクロ経済学、経済数学等の基礎理論系科目および計量経済学、経済統計学等の数量分析系科目を開設する。
・社会において生じている事象を的確に分析し、その事象を解明できる能力を身につけるために金融論、公共経済学、国際経済学、経済政策基礎論、日本経済論等の応用系分野別科目を開設する。
・分析、解明したことを総合し、的確に表現できる能力を身につけるために研究指導等を開設する。

なお、これらの科目は、講義・演習・研究指導等の授業形態に応じて、アクティブラーニング、体験型学習などを適宜組み合わせて行う。
学修成果の評価は、次の方法で行う。
・講義科目については、筆記試験、レポート、参加度等により、学修目標に即して多元的、包括的な方法で到達度を判定する。
・その他演習科目等については、筆記試験、レポート、参加度、発表内容等により、学修目標に即して多元的、包括的な方法で到達度を判定する。

入学者の受入れに関する方針
（公表方法：HP https://www.kobe-u.ac.jp/campuslife/edu/policy/index.html）

（概要）
経済学は人々の生活をどのように豊かにするかを追求するための学問です。神戸大学経済学部は開学以来の「真摯・自由・協同」の精神に基づいて広く社会においてリーダーとして活躍できる人材を育てることを目的として、次のような学生を求めています。

●経済学部の求める学生像
１．幅広く、豊かな教養とともに経済学を基盤とした専門的知識を身に付け、社会の様々な出来事を分析し、論理的・創造的に思考できる学生

〔求める要素：知識・技能、思考力・判断力・表現力〕
２．すぐれたコミュニケーション能力を発揮できる学生
〔求める要素：主体性・協働性、関心・意欲〕
３．国際的に活躍するため英語など外国語を習得し、異文化を理解できる学生
〔求める要素：知識・技能、主体性・協働性、関心・意欲〕

※高等学校等で修得しておいてもらいたい内容
「国語」：文章を読み解く力、明確な表現力。
「地歴・公民」：幅広く総合的な知識、様々な社会現象を捉える分析力。
「数学」：数学的思考力、表現力、総合力。
「理科」：自然科学の総合的理解力、論理的思考力。
「英語」：読解力、コミュニケーション力、表現力。
「情報」：情報を科学的に理解する力と活用する力。

●入学者選抜の基本方針
以上のような学生を選抜するために、経済学部のディプロマ・ポリシーおよびカリキュラム・ポリシーを踏まえ、一般選抜では、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」を測ります。

学部等名　経営学部
教育研究上の目的 （公表方法：HP https://www.kobe-u.ac.jp/ja/about/public-information/education/purpose/）
（概要） 本学部は、広く知識を授けるとともに、わが国における経営学・商学の中核的拠点として、先端的な教育研究を行い、次世代の知識・産業社会にあって知的リーダーシップを発揮できる、豊かな教養、経営・経済・社会の全般にわたる基本的知識、経営に関する専門的知識、国際社会に通用する思考力、判断力及びコミュニケーション能力を備えた人材の養成を目的とする。
卒業又は修了の認定に関する方針 （公表方法：HP https://www.kobe-u.ac.jp/ja/academics/policy/）
神戸大学経営学部は、経営学・会計学・商学の領域において幅広い知識とそれを基盤とした専門的能力を身につけ、人間性、創造性、国際性に優れ、次世代の知識・産業社会において知的リーダーシップを発揮できる人材を育成することを目指し、以下に示した方針に従って学士の学位を授与する。 **学位：学士（経営学）** ・本学部に所定の期間在学し、本学部の定める卒業に必要な単位を修得する。 ・卒業までに、神戸大学のディプロマ・ポリシーに定める能力に加え、次の能力を修得する。 ・企業に代表される組織とそれを取り巻く社会や環境との相互依存関係の本質を理解できるような、豊かな一般教養と高い倫理性 ・経営に関する実際と問題を把握し、それを実践的かつ革新的に解決するための意思決定をおこなえる思考力と判断力をもつことができるような、経営学・会計学領域の基本および専門的知識 ・経営に関する自分自身の考えを、国内だけでなく海外の人々にも適切に伝えることができる表現力およびコミュニケーション力

学位：学士（商学）
・本学部に所定の期間在学し、本学部の定める卒業に必要な単位を修得する。
・卒業までに、神戸大学のディプロマ・ポリシーに定める能力に加え、次の能力を修得する。
・企業に代表される組織とそれを取り巻く社会や環境との相互依存関係の本質を理解できるような、豊かな一般教養と高い倫理性
・経営に関する実際と問題を把握し、それを実践的かつ革新的に解決するための意思決定をおこなえる思考力と判断力をもつことができるような、商学領域の基本および専門的知識
・経営に関する自分自身の考えを、国内だけでなく海外の人々にも適切に伝えることができる表現力およびコミュニケーション力

教育課程の編成及び実施に関する方針
（公表方法：HP https://www.kobe-u.ac.jp/ja/academics/policy/）

（概要）
神戸大学経営学部では、神戸大学のカリキュラム・ポリシーに基づき、経営学・会計学・商学の領域において幅広い知識とそれを基盤とした専門的能力を身につけ、人間性、創造性、国際性に優れ、次世代の知識・産業社会において知的リーダーシップを発揮できる人材を育成することを目指し、以下に示した方針に従ってカリキュラムを編成する。

なお、以下の科目は、講義・演習・研究指導等の授業形態に応じて、アクティブラーニング、体験型学習などを適宜組み合わせて行う。学修成果の評価は、次の方法で行う。
●講義科目については、筆記試験、レポート、参加度等により、学修目標に即して多元的、包括的な方法で到達度を判定する。
●演習・研究指導等の科目については、筆記試験、レポート、参加度、発表内容等により、学修目標に即して多元的、包括的な方法で到達度を判定する。

学位：学士（経営学）
１．「人間性」「創造性」「国際性」を学生に身につけさせるため、すべての学生が履修する共通の科目として、基礎教養科目、総合教養科目、高度教養科目、外国語科目、初年次セミナー、キャリア科目、情報科目、健康・スポーツ科学及びその他必要と認める科目を開設する。
２．「専門性」を学生に身につけさせるため、以下の専門科目を開設する。
●企業に代表される組織とそれを取り巻く社会や環境との相互依存関係の本質を理解できるような、豊かな一般教養と高い倫理性を身につけることができるよう、第１群科目（基礎論科目）、第２群科目（基本科目）、共通専門基礎科目、初年次セミナーを開設する。
●経営に関する実際と問題を把握し、それを実践的かつ革新的に解決するための意思決定をおこなえる思考力と判断力をもつことができるような、経営学・会計学領域の基本および専門的知識を身につけることができるよう、第２群科目（基本科目）、第３群科目（応用・発展科目）を開設する。
●経営に関する自分自身の考えを、国内だけではなく海外の人々にも適切に伝えることができる表現力およびコミュニケーション力を身につけることができるよう、グローバル科目群、研究指導を開設する。

学位：学士（商学）

１．「人間性」「創造性」「国際性」を学生に身につけさせるため、すべての学生が履修する共通の科目として、基礎教養科目、総合教養科目、高度教養科目、外国語科目、初年次セミナー、キャリア科目、情報科目、健康・スポーツ科学及びその他必要と認める科目を開設する。

２．「専門性」を学生に身につけさせるため、以下の専門科目を開設する。

●企業に代表される組織とそれを取り巻く社会や環境との相互依存関係の本質を理解できるような、豊かな一般教養と高い倫理性を身につけることができるよう、第１群科目（基礎論科目）、　第２群科目（基本科目）、共通専門基礎科目、初年次セミナーを開設する。

●経営に関する実際と問題を把握し、それを実践的かつ革新的に解決するための意思決定をおこなえる思考力と判断力をもつことができるような、商学領域の基本および専門的知識を身につけることができるよう、第２群科目（基本科目）、第３群科目（応用・発展科目）を開設する。

●経営に関する自分自身の考えを、国内だけではなく海外の人々にも適切に伝えることができる表現力およびコミュニケーション力を身につけることができるよう、グローバル科目群、研究指導を開設する。

入学者の受入れに関する方針
（公表方法：HP https://www.kobe-u.ac.jp/campuslife/edu/policy/index.html）

（概要）

経営学部は、経営学・会計学・商学の領域において高度な専門的知識を身につけ、次世代の知識・産業社会において知的リーダーシップを発揮できる人材の育成を目的としています。このことから経営学部では次のような学生を求めています。

●経営学部の求める学生像

１．経営・経済・社会の全般にわたる一般的・基礎的教育を受けるために必要な日本語・外国語の読解能力・表現能力と数理的・論理的思考能力をそなえた学生
〔求める要素：知識・技能、思考力・判断力・表現力〕

２．経営に関する多方面の専門知識を修得する意欲に富む学生
〔求める要素：知識・技能、関心・意欲〕

３．学生相互で切磋琢磨できるような幅広い関心と向上心をもつ学生
〔求める要素：主体性・協働性、関心・意欲〕

４．国際社会に通用する思考力、判断力およびコミュニケーション能力をもつことを希求する学生
〔求める要素：思考力・判断力・表現力、主体性・協働性、関心・意欲〕

※高等学校等で修得しておいてもらいたい内容（一般選抜・学校推薦型選抜）
「国語」：文章を読み解く力、明確な表現力。
「地歴・公民」：幅広く総合的な知識、様々な社会現象を捉える分析力。
「数学」：数学的思考力、表現力、総合力。
「理科」：自然科学の総合的理解力、論理的思考力。
「英語」：読解力、コミュニケーション力、表現力。
「情報」：情報を科学的に理解する力と活用する力。

●入学者選抜の基本方針

以上のような学生を選抜するために、経営学部のディプロマ・ポリシーおよびカリキュラム・ポリシーを踏まえ、一般選抜では、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」を測ります。

学部等名　理学部
教育研究上の目的 （公表方法：HP https://www.kobe-u.ac.jp/ja/about/public-information/education/purpose/）
（概要） 本学部は、自然科学の基礎である理学諸分野を探求することによって自然の理解を深め、社会の進歩に貢献することを教育研究上の目的とする。
卒業又は修了の認定に関する方針 （公表方法：HP https://www.kobe-u.ac.jp/ja/academics/policy/）
（概要） 神戸大学理学部は、自然科学の基礎である理学諸分野を探求することによって自然の理解を深めるとともに、理学分野の専門知識や研究能力に基づいた問題解決能力を持つ人材を育成し、社会の進歩に貢献することを教育研究上の目的とする。 この目的を達成するため、以下に示した方針に従って学士の学位を授与する。 **学位：学士（理学）** **・数学科** 神戸大学のディプロマ・ポリシーにもとづき、理学部数学科は以下に示した方針に従って当該学位を授与する。 ・本学部に4年以上在学し、履修要件として定めた所定の単位以上を修得すること。 ・神戸大学のディプロマ・ポリシーで定める能力に加え、卒業までに、本学部学生が、身につけるべき能力を次のとおりとする。 ・科学全般を俯瞰する能力 ・数学の基礎を理解し応用する能力 ・数学の中核を理解し応用する能力 ・現代数学を理解する能力 ・自ら課題を設定し、課題を創造的に解決する能力 **・物理学科** 神戸大学のディプロマ・ポリシーにもとづき、理学部物理学科は以下に示した方針に従って当該学位を授与する。 ・本学部に4年以上在学し、履修要件として定めた所定の単位以上を修得すること。 ・神戸大学のディプロマ・ポリシーで定める能力に加え、卒業までに、本学部学生が、身につけるべき能力を次のとおりとする。 ・科学全般を俯瞰する能力 ・物理学の基礎を理解し応用する能力 ・物質の構造および機能を理解する能力 ・現代物理学を理解する能力 ・物理学の実験手法を応用する能力 ・自ら課題を設定し、課題を創造的に解決する能力 **・化学科** 神戸大学のディプロマ・ポリシーにもとづき、理学部化学科は以下に示した方針に従って当該学位を授与する。 ・本学部に4年以上在学し、履修要件として定めた所定の単位以上を修得すること。

・神戸大学のディプロマ・ポリシーで定める能力に加え、卒業までに、本学部学生が、身につけるべき能力を次のとおりとする。
・科学全般を俯瞰する能力
・化学の基礎を理解し応用する能力
・物質の構造および機能を理解する能力
・現代化学を理解する能力
・化学の実験手法を応用する能力
・自ら課題を設定し、課題を創造的に解決する能力

・生物学科

神戸大学のディプロマ・ポリシーにもとづき、理学部生物学科は以下に示した針に従って当該学位を授与する。

・本学部に4年以上在学し、履修要件として定めた所定の単位以上を修得すること。
・神戸大学のディプロマ・ポリシーで定める能力に加え、卒業までに、本学部学生が、身につけるべき能力を次のとおりとする。
・科学全般を俯瞰する能力
・生物学の基礎を理解し応用する能力
・すべての生物に共通する生命の仕組み及び生物界の多様性の成り立ちを理解する能力
・現代生物学を理解する能力
・生物学の実験手法を応用する能力
・自ら課題を設定し、課題を創造的に解決する能力

・惑星学科

神戸大学のディプロマ・ポリシーにもとづき、理学部惑星学科は以下に示した方針に従って当該学位を授与する。

・本学部に4年以上在学し、履修要件として定めた所定の単位以上を修得すること。
・神戸大学のディプロマ・ポリシーで定める能力に加え、卒業までに、本学部学生が、身につけるべき能力を次のとおりとする。
・科学全般を俯瞰する能力
・惑星学に必要な基礎を理解し応用する能力
・地球及び太陽系・宇宙の諸現象を理解する能力
・地球及び太陽系・宇宙を包括する惑星学を理解する能力
・惑星学の実験、観測および調査手法を理解し応用する能力
・自ら課題を設定し、課題を創造的に解決する能力

教育課程の編成及び実施に関する方針
（公表方法：HP https://www.kobe-u.ac.jp/ja/academics/policy/）

（概要）

神戸大学のカリキュラム・ポリシーにもとづき、理学部は以下の方針に則りカリキュラムを編成する。

1．「人間性」「創造性」「国際性」を学生に身につけさせるため、すべての学生が履修する共通の科目として、基礎教養科目、総合教養科目、高度教養科目、外国語科目、初年次セミナー、キャリア科目、情報科目、健康・スポーツ科学及びその他必要と認める科目を開設する。
2．深い学識を涵養し、「専門性」を学生に身につけさせるため、以下の専門科目を開設する。（共通専門基礎科目及び学部が開設する高度教養科目を含む）

・数学科

・科学全般を俯瞰する能力を身につけることができるよう共通専門基礎科目を開設する
・数学の基礎を理解し応用する能力を身につけることができるよう数学基礎科目を開設する
・数学の中核を理解し応用する能力を身につけることができるよう数学基盤科目を開設する
・現代数学を理解する能力を身につけることができるよう数学発展科目を開設する
・自ら課題を設定し、課題を創造的に解決する能力を身につけることができるよう数学演義と数学講究を開設する

なお、これらの科目は、講義・演習等の授業形態に応じて、アクティブラーニング、体験型学習などを適宜組み合わせて行う。
学修成果の評価は、次の方法で行う。
・講義科目については、筆記試験、レポート、参加度等により、学修目標に即して多元的、包括的な方法で到達度を判定する。
・演習科目については、筆記試験、レポート、参加度、発表内容等により、学修目標に即して多元的、包括的な方法で到達度を判定する。
・数学講究については、口頭試問、レポート、参加度、発表内容等により、学修目標に即して多元的、包括的な方法で到達度を判定する。

・物理学科
・科学全般を俯瞰する能力を身につけることができるよう共通専門基礎科目を開設する。
・物理学の基礎を理解し応用する能力を身につけることができるよう物理学基礎科目を開設する。
・物質の構造および機能を理解する能力を身につけることができるよう物理学専門科目を開設する。
・現代物理学を理解する能力を身につけることができるよう物理学高度専門科目を開設する。
・物理学の実験手法を応用する能力を身につけることができるよう物理学実験系科目を開設する。
・自ら課題を設定し、課題を創造的に解決する能力を身につけることができるよう特別研究科目を開設する。

なお、これらの科目は、講義・演習・実験等の授業形態に応じて、アクティブラーニング、体験型学習などを適宜組み合わせて行う。
学修成果の評価は、次の方法で行う。
・講義科目については、筆記試験、レポート、参加度等により、学修目標に即して多元的、包括的な方法で到達度を判定する。
・演習及び実験科目については、筆記試験、レポート、参加度、発表内容等により、学修目標に即して多元的、包括的な方法で到達度を判定する。
・特別研究については、口頭試問、レポート、参加度、発表内容等により、学修目標に即して多元的、包括的な方法で到達度を判定する。

・化学科
・科学全般を俯瞰する能力を身につけることができるよう共通専門基礎科目を開設する。
・化学の基礎を理解し応用する能力を身につけることができるよう化学基礎科目を開設する。

・物質の構造および機能を理解する能力を身につけることができるよう化学専門科目を開設する。
・現代化学を理解する能力を身につけることができるよう化学高度専門科目を開設する。
・化学の実験手法を応用する能力を身につけることができるよう化学実験系科目を開設する。
・自ら課題を設定し、課題を創造的に解決する能力を身につけることができるよう特別研究科目を開設する。

なお、これらの科目は、講義・演習・実験等の授業形態に応じて、アクティブラーニング、体験型学習などを適宜組み合わせて行う。
学修成果の評価は、次の方法で行う。
・講義科目については、筆記試験、レポート、参加度等により、学修目標に即して多元的、包括的な方法で到達度を判定する。
・演習及び実験科目については、筆記試験、レポート、参加度、発表内容等により、学修目標に即して多元的、包括的な方法で到達度を判定する。
・特別研究については、口頭試問、レポート、参加度、発表内容等により、学修目標に即して多元的、包括的な方法で到達度を判定する。

・生物学科
・科学全般を俯瞰する能力を身につけることができるよう共通専門基礎科目を開設する。
・生物学の基礎を理解し応用する能力を身につけることができるよう生物学基礎科目を開設する。
・すべての生物に共通する生命の仕組み及び生物界の多様性の成り立ちを理解する能力を身につけることができるよう生物学専門科目を開設する。
・現代生物学を理解する能力を身につけることができるよう生物学高度専門科目を開設する。
・生物学の実験手法を応用する能力を身につけることができるよう生物学実験系科目を開設する。
・自ら課題を設定し、課題を創造的に解決する能力を身につけることができるよう特別研究科目を開設する。

なお、これらの科目は、講義・演習・実験・実習等の授業形態に応じて、アクティブラーニング、体験型学習などを適宜組み合わせて行う。
学修成果の評価は、次の方法で行う。
・講義科目については、筆記試験、レポート、参加度等により、学修目標に即して多元的、包括的な方法で到達度を判定する。
・演習・実験及び実習科目については、レポート、参加度、発表内容等により、学修目標に即して多元的、包括的な方法で到達度を判定する。
・特別研究については、口頭試問、レポート、参加度、発表内容等により、学修目標に即して多元的、包括的な方法で到達度を判定する。

・惑星学科
・科学全般を俯瞰する能力を身につけることができるよう共通専門基礎科目を開設する。
・惑星学に必要な基礎を理解し応用する能力を身につけることができるよう惑星学基礎科目を開設する。
・地球及び太陽系・宇宙の諸現象を理解する能力を身につけることができるよう惑

星学専門科目を開設する。
・地球及び太陽系・宇宙を包括する惑星学を理解する能力を身につけることができるよう惑星学高度専門科目を開設する。
・惑星学の実験、観測および調査手法を理解し応用する能力を身につけることができるよう惑星学実験・実習系科目を開設する。
・自ら課題を設定し、課題を創造的に解決する能力を身につけることができるよう特別研究科目を開設する。

なお、これらの科目は、講義・演習・実験・実習等の授業形態に応じて、アクティブラーニング、体験型学習などを適宜組み合わせて行う。
学修成果の評価は、学修目標に対する達成度を多元的、包括的な方法で評価する。次の方法で行う。
・講義科目については、筆記試験、レポート、参加度等により、学修目標の達成度を多元的、包括的な方法で判定する。
・演習・実験及び実習科目については、筆記試験、レポート、参加度、発表内容等により、学修目標の達成度を多元的、包括的な方法で判定する。
・特別研究については、口頭試問、レポート、参加度、発表内容等により、学修目標に即して多元的、包括的な方法で到達度を判定する。

入学者の受入れに関する方針
（公表方法：HP https://www.kobe-u.ac.jp/campuslife/edu/policy/index.html）

（概要）
理学部では、数学、物理学、化学、生物学、惑星学のそれぞれの学問体系を土台にして、自然科学の基礎となる教育と研究を行い、世界をさまざまな面からとらえた数理現象、物質を構成する素粒子、原子、分子の性質や振る舞い、生命活動を担う分子の働きや生態系を支える多様性、あるいは地球や宇宙の成り立ちや動きなどを、講義、演習、実験、実習を通じて深く理解する人材を養成することを目指しています。このため、理学部では、次のような学生を求めます。

●理学部の求める学生像
１．数学、理科分野が対象とする多彩な自然現象に対し旺盛な知識欲をもち、批判的精神と独立心に富んだ見方や考え方ができる学生
〔求める要素：知識・技能、思考力・判断力・表現力、関心・意欲〕
２．人文科学、社会科学など多方面の分野に興味を示すとともに、総合的な理解力を持つ学生
〔求める要素：知識・技能、思考力・判断力・表現力、関心・意欲〕
３．特定の科目に際立って優秀で、独自性の豊かな学生
〔求める要素：知識・技能、思考力・判断力・表現力〕
４．日本語や英語の基本的学力をそなえ、それによる表現力、コミュニケーション能力の向上に意欲のある学生
〔求める要素：知識・技能、主体性・協働性、関心・意欲〕

※高等学校等で修得しておいてもらいたい内容
「国語」：文章を読み解く力、明確な表現力。
「地歴・公民」：幅広く総合的な知識、様々な社会現象を捉える分析力。
「数学」：数学的思考力、表現力、総合力。
「理科」：自然科学の総合的理解力、論理的思考力。
「英語」：読解力、コミュニケーション力、表現力。
「情報」：情報を科学的に理解する力と活用する力。

●入学者選抜の基本方針
以上のような学生を選抜するために、理学部のディプロマ・ポリシーおよびカリキュラム・ポリシーを踏まえ、一般選抜では、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」を測ります。

学部等名　医学部医学科
教育研究上の目的 （公表方法：HP https://www.kobe-u.ac.jp/ja/about/public-information/education/purpose/）
（概要） 広い知識を授けるとともに、医学・生命科学分野の教育研究を行い、高度な専門的知識・技術を身に付けさせ、高い倫理観並びに旺盛な探究心と想像力を有する「科学者」としての視点を持つ医師及び医学・生命科学における先端的・学際的研究を推進する研究者を養成することを目的とする。
卒業又は修了の認定に関する方針 （公表方法：HP https://www.kobe-u.ac.jp/ja/academics/policy/）
神戸大学医学部医学科は、広い知識を授けるとともに、医学・生命科学分野の教育研究を行い、高度な専門的知識・技術を身に付けさせ、高い倫理観並びに旺盛な探究心と想像力を有する「科学者」としての視点を持つ医師及び医学・生命科学における先端的・学際的研究を推進する研究者を養成すること、また、広い視野を有し、それぞれの領域における指導者として、国際的に活躍できる人材の育成を目的としている。 この目的を達成するため、以下に示した方針に従って学士の学位を授与する。 **学位：学士（医学）** 神戸大学のディプロマ・ポリシーにもとづき、医学部医学科は以下に示した方針に従って当該学位を授与する。 ・本学科に６年以上在学し、履修要件として定めた所定の単位以上を修得し、かつ卒業試験に合格すること。 ・神戸大学のディプロマ・ポリシーに定める能力に加え、卒業までに、本学部学生が、身につけるべき能力を次のとおりとする。 **I. 礼儀・態度** 患者や医療従事者等に対して良好な人間関係を構築することができる。 **II. 科学的探究心** 生命科学に対する探究心と感性をもち、科学的思考能力と創造性をそなえている。 **III. 知識と技能** 基礎と臨床のバランスのとれた知識をもち、的確な臨床推理能力を有している。 病態を理解し、それに即した基本的技能を修得している。 **IV. 倫理観** 確固とした倫理観をもちつつ、周囲との連携の中で自己を変革し続けることができる。 **V. 向上心** 自ら目標を設定し、課題を抽出し、解決に向けた取り組みができる。 長期的な展望にたち、有為の人材たらんとする気概をもっている。

VI. リーダーシップ

多様性を受容できる人間性をもち、リーダーシップを発揮して地域社会に貢献できる。

VII. 国際性

広範な情報を収集・分析することができ、適切な議論ができる語学力と国際性を身につけている。

教育課程の編成及び実施に関する方針

（公表方法：HP https://www.kobe-u.ac.jp/ja/academics/policy/）

（概要）

神戸大学のカリキュラム・ポリシーにもとづき、医学部医学科は以下の方針に則りカリキュラムを編成する。

１．「人間性」「創造性」「国際性」を学生に身につけさせるため、すべての学生が履修する共通の科目として、基礎教養科目、総合教養科目、高度教養科目、外国語科目、初年次セミナー、キャリア科目、情報科目、総合実習、総合医学、臨床医学チュートリアル、選択科目及びその他必要と認める科目を開設する。

２．深い学識を涵養し、医学科生として必要な「専門性」及び「礼儀・態度」「科学的探究心」「知識と技能」「倫理観」「向上心」「リーダーシップ」「国際性」を学生に身につけさせるため、以下の専門科目を開設する。（共通専門基礎科目及び学部が開設する高度教養科目を含む）

・「礼儀・態度」を身につけることができるよう総合医学、総合実習を開設する。

・「科学的探究心」を身につけることができるよう高度教養科目、基礎臨床・融合科目、総合医学、転換教育科目、総合実習、選択科目、臨床医学・チュートリアルを開設する。

・「知識と技能」を身につけることができるよう総合実習、共通専門基礎科目、転換教育科目、基礎・臨床融合科目、総合医学を開設する。

・「倫理観」を身につけることができるよう転換教育科目、高度教養科目、基礎・臨床融合科目、基礎医学、総合医学を開設する。

・「向上心」を身につけることができるよう転換教育科目、選択科目、臨床医学・チュートリアル、総合医学、総合実習を開設する。

・「リーダーシップ」を身につけることができるよう転換教育科目、臨床医学・チュートリアルを開設する。

・「国際性」を身につけることができるよう転換教育科目、高度教養科目を開設する。

なお、これらの科目は、講義・実習等の授業形態に応じて、アクティブラーニング、体験型学習などを適宜組み合わせて行う。

学修成果の評価は、次の方法で行う。

・講義科目については、筆記試験、レポート、参加度等により、学修目標に即して多元的、包括的な方法で到達度を判定する。

・実習等科目については、筆記試験、レポート、参加度、発表内容等により、学修目標に即して多元的、包括的な方法で到達度を判定する。

入学者の受入れに関する方針

（公表方法：HP https://www.kobe-u.ac.jp/campuslife/edu/policy/index.html）

（概要）
　医学部医学科における教育は、高い倫理観を有し高度な専門知識・技能を身につけた医師を養成することを目的としていますが、それにとどまらず、旺盛な探究心と想像力を有する「科学者」としての視点を持った医師および生命科学・医学研究者を育成することを目指しています。また広い視野を有し、それぞれの領域における指導者として、国際的に活躍できる人材の育成を目標としています。これらのことを受け止めることのできる能力や知識を持った次のような学生を求めています。

●医学部医学科の求める学生像
１．生命科学・医学に強い興味を持ち、探究心と学習意欲が旺盛な学生
　〔求める要素：関心・意欲〕
２．しっかりとした基礎学力を身につけている学生
　〔求める要素：知識・技能〕
３．協調性があり、問題解決においては独創性と指導力を発揮できる学生
　〔求める要素：思考力・判断力・表現力、主体性・協働性〕
４．国際的に活躍する意欲を持った学生
　〔求める要素：主体性・協働性、関心・意欲〕

※高等学校等で修得しておいてもらいたい内容
「国語」：文章を読み解く力、的確に表現する力。
「地歴・公民」：幅広い視野と総合的な知識、様々な社会現象を分析し捉える力。
「数学」：数学的思考力、表現力、総合力。
「理科」：自然科学の総合的理解力、論理的思考力。
「英語」：外国語の読解力と表現力、外国語によるコミュニケーション能力。
「情報」：情報を科学的に理解する力と活用する力。

●入学者選抜の基本方針
以上のような学生を選抜するために、医学部医学科のディプロマ・ポリシーおよびカリキュラム・ポリシーを踏まえ、一般選抜では、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・協働性」「関心・意欲」を測ります。

学部等名　医学部保健学科
教育研究上の目的 （公表方法：HP https://www.kobe-u.ac.jp/ja/about/public-information/education/purpose/）
（概要） 　広い知識を授けるとともに、総合保健医療の創造及び実践に向けた研究を行い、保健医療福祉チームの中で協働して人々の健康を支え、国内外の医療及び人類の幸福に貢献することのできる高度な専門的知識、技術及び豊かな人間性を有する医療人並びに問題を発見し解決していくために必要な科学的・論理的思考、創造的探求心及び研究志向性を有する医療人の養成を目的とする。
卒業又は修了の認定に関する方針 （公表方法：HP https://www.kobe-u.ac.jp/ja/academics/policy/）

（概要）
　神戸大学医学部保健学科は、「真摯・自由・協同」の精神の下、高い倫理観と科学的視点を持ち、高度な専門的知識・技能を身につけた医療人を養成するために、保健医療・健康科学に関する卓越した教育を提供することを基本理念としている。また、旺盛な探究心と創造性を身につけ、将来、それぞれの専門領域における指導者として、国際的に活躍できる人材の育成を目的とする。
　この目的を達成するため、以下に示した方針に従って学士の学位を授与する。

学位：学士（看護学）

<u>看護学専攻</u>
　神戸大学のディプロマ・ポリシーにもとづき、医学部保健学科看護学専攻は以下に示した方針に従って当該学位を授与する。
・本学部保健学科看護学専攻に 4 年以上在学し、履修要件として定めた所定の単位以上を修得すること。
・神戸大学のディプロマ・ポリシーが定める能力に加え、卒業までに、本学部保健学科看護学専攻学生が身につけるべき能力を次のとおりとする。
「人間性と倫理性」
・豊かな人間性と教養を持ち、保健医療における高い倫理性、柔軟性、協調性、当事者性を身につけた看護専門職者となるための基礎的能力。
・ひととして、看護専門職者として生涯成長していく能力。
「創造性」
・論理的に事象を解釈し、ケアリングの視点を持ち、よりよいケアを創造する能力。
・主体的・自律的に行動し、看護の独自性・専門性を探求する能力。
「地域性・国際性」
・多様な文化・価値観を尊重し、地域・国際社会で活躍する基礎的能力。
・地域・国際社会における多彩な Well-being と健康課題に関心をもち探求する能力。
「専門性と協働」
・人々の生活の質（QOL）の向上をめざし、幅広い知識と確かな技術・豊かな感性を備えて看護実践する能力。
・医療の基礎学力と専門知識を習得した看護専門職者として、保健医療福祉チームにおいて協働する能力。
・科学的・論理的思考力、実行力、コミュニケーション能力を持ち、リーダーシップを発揮する能力。

学位：学士（保健衛生学）

<u>検査技術科学専攻</u>
　神戸大学のディプロマ・ポリシーにもとづき、保健学科検査技術科学専攻は以下に示した方針に従って当該学位を授与する。
・本学部保健学科検査技術科学専攻に 4 年以上在学し、履修要件として定めた所定の単位以上を修得すること。
・神戸大学のディプロマ・ポリシーに定める能力に加え、卒業までに、本学部保健学科検査技術科学専攻学生が身につけるべき能力を次のとおりとする。
「人間性と倫理性」
・医療チーム・研究チーム・教育チームの一員として卓越した人間性を備え、高い倫理観にもとづいた行動により、社会の第一線で活躍しうる臨床・研究・教

育活動の能力。
「創造性」
・進取の気質と問題解決に対する柔軟な想像性を身につけ、社会に貢献できる新たな技術や機器開発に取り組む能力。
「地域性・国際性」
・疾病の診断・早期発見・治療評価や健康状態の把握に対して、地域医療の中心を担う能力。
・国際的な視野から検査技術と医療を俯瞰し、英語を用いて学術的に適切な情報収集と発表を行い、第三者と良好な意思疎通がはかれる能力。
「専門性と協働」
・医療検査技術についての高度の専門知識と検査技能を得るための主体的学習能力。
・医療従事者・自然科学研究者と協調して人間福祉の向上に寄与する能力。

学位：学士（保健学）

理学療法学専攻

神戸大学のディプロマ・ポリシーに基づき、医学部保健学科理学療法学専攻は以下に示した方針に従って当該学位を授与する。

・本学部保健学科理学療法学専攻に 4 年以上在学し、履修要件として定めた所定の単位以上を修得すること。
・神戸大学のディプロマ・ポリシーに定める能力に加え、卒業までに、本学部保健学科理学療法学専攻学生が身につけるべき能力を次のとおりとする。
「人間性と倫理性」
・豊かな人間性と保健医療における高い倫理性を身につけた保健医療専門職者として臨床に携わる能力。
「創造性」
・標準的な理学療法の理論と技術を修得し、旺盛な探究心と創造力に加えて、課題を設定し解決することにより、理学療法とその関連分野の未来を創造する能力。
・先人の知識を尊重し、基礎・臨床研究を通じてエビデンスを創造する能力。
「地域性・国際性」
・多様な地域課題を把握し、貢献するための社会性を備えた能力。
・理学療法の理論と技術を通じて、国際的に活躍できるための基礎的な能力。
「専門性と協働」
・医療の基礎学力と高度な専門知識を習得した専門職として、対象者や他専門職と相互に信頼し、良好な人間関係を築くことにより保健医療福祉チームにおいて協働できる能力。

学位：学士（保健学）

作業療法学専攻

神戸大学のディプロマ・ポリシーに基づき、医学部保健学科作業療法学専攻は以下に示した方針に従って当該学位を授与する。

・本学部保健学科作業療法学専攻に 4 年以上在学し、履修要件として定めた所定の単位以上を修得すること。
・神戸大学のディプロマ・ポリシーに定める能力に加え、卒業までに、本学科学生が身につけるべき能力を次のとおりとする。
「人間性と倫理性」

・作業療法専門職としての豊かな人間性と高い倫理観を身につけ、社会の発展に積極的に寄与する能力。
・個々人の人権を尊重し、深い共感性を持って、対象となる方々の特性を理解し、自立に向けた支援を提供する能力。
「創造性」
・探究心と創造力を持って課題を設定し、解決できる実践的な能力。
・問題を解決するために、科学的な分析・考察をし、論理的に考える能力。
「地域性・国際性」
・幅広い視野を持ち、作業療法に関わる専門的知識を活用して多職種連携により地域社会へ貢献できる能力。
・グローバルな視点で自らの課題を整理・理解するとともに、的確なプレゼンテーション、円滑なコミュニケーションをする能力。
「専門性と協働」
・医療・保健・福祉など各分野における高度な作業療法学の専門的知識および技術を習得するために主体的かつ継続的に学習する能力。
・高度な医療専門職として、チーム医療の現場で関連職種との優れたコーディネート能力を発揮し、協働する能力。

教育課程の編成及び実施に関する方針
（公表方法：HP https://www.kobe-u.ac.jp/ja/academics/policy/）

（概要）
学位：学士（看護学）
看護学専攻
神戸大学のカリキュラム・ポリシーにもとづき、医学部保健学科看護学専攻は以下の方針に則りカリキュラムを編成する。

１．「人間性と倫理性」「創造性」「地域性・国際性」を学生に身につけさせるため、すべての学生が履修する共通の科目として、基礎教養科目、総合教養科目、外国語科目、情報科目、健康・スポーツ科学、高度教養科目及びその他必要と認める科目を開設する。
２．深い学識を涵養し、「専門性と協働」を学生に身につけさせるため、以下の専門科目を開設する。（共通専門基礎科目及び学部が開設する高度教養科目を含む）
・人々の生活の質（QOL）の向上をめざし、幅広い知識と確かな技術・豊かな感性を備えて看護実践する能力を身につけることができるよう国際保健、災害保健などの高度教養科目、現代医療と生命倫理などの共通特論、看護学概論などの講義科目、生活援助技術演習、治療援助技術演習、リフレクション演習、看護実践統合演習などの演習科目、看護実践基盤実習、看護実践展開実習などの実習科目、看護研究方法論、卒業研究を開設する。
・医療の基礎学力と専門知識を習得した看護専門職者として、保健医療福祉チームにおいて協働する能力を身につけることができるようＩＰＷ概論、保健学初年次セミナー、初期体験実習などの共通特論、ＩＰＷ統合演習などの高度教養科目、病理学、健康と栄養、薬と生体反応、身体のしくみと働きなどの講義科目、解剖学演習、フィジカルアセスメント演習などの演習科目、看護実践基盤実習、看護実践展開実習などの実習科目を開設する。
・科学的・論理的思考力、実行力、コミュニケーション能力を持ち、リーダーシップを発揮する能力を身につけることができるよう保健学初年次セミナー、初期体験実習などの共通特論、災害保健、国際保健、ＩＰＷ統合演習などの高度教養科目、統計学、病理学、保健行政論、生化学、援助過程論、症状マネージメント論などの講義科目、リフレクション演習、看護実践統合演習などの演習科目、看護実践基盤実習、看護実践展開実習などの実習科目、看護研究方法論、

卒業研究を開設する。

なお、これらの科目は、講義・演習・実習等の授業形態に応じて、アクティブラーニング、体験型学習などを適宜組み合わせて行う。
学修成果の評価は、次の方法で行う。
・講義科目については、筆記試験、レポート、参加度等により、学修目標に即して多元的、包括的な方法で到達度を判定する。
・演習・実験・実習及び実技科目については、筆記試験、レポート、参加度、発表内容、実技等により、学修目標に即して多元的、包括的な方法で到達度を判定する。

学位：学士（保健衛生学）
検査技術科学専攻
神戸大学のカリキュラム・ポリシーにもとづき、保健学科検査技術科学専攻は以下に示した方針に則りカリキュラムを編成する。

１．「人間性と倫理性」「創造性」「地域性・国際性」を学生に身につけさせるため、すべての学生が履修する共通の科目として、基礎教養科目、総合教養科目、高度教養科目、外国語科目、初年次セミナー、キャリア科目、情報科目、健康・スポーツ科学及びその他必要と認める科目を開設する。
２．深い学識を涵養し、「専門性と協働」を学生に身につけさせるため、以下の専門科目を開設する。(共通専門基礎科目及び学部が開設する高度教養科目を含む)
・医療検査技術についての高度の専門知識と検査技能を得るための主体的学習能力を身につけることができるよう現代医療と生命倫理、初期体験実習、IPW 概論などの共通特論、IPW 統合演習(高度教養科目)、解剖学、生理学、生化学、統計学、病理学、免疫学、分子生物学概論、公衆衛生学、基礎臨床検査学、臨床血液学、臨床細菌学、臨床検査医学、遺伝子・染色体検査学、生理機能検査学、ウイルス学、ウイルス検査学、臨床細菌検査学、検査管理総論、機器分析学、検査機器学、生体情報計測学、医療システム論などの講義科目、生理学実習、解剖学実習、公衆衛生学実習、基礎臨床検査学実習、臨床化学実習、臨床免疫学実習、臨床血液学実習、臨床生理学実習、病理組織細胞学実習、ウイルス検査学実習、機器分析学実習、生体情報計測学実習などの実習科目、検査統合演習、検査情報解析学演習などの演習科目を開設する。
・医療従事者・自然科学研究者と協調して人間福祉の向上に寄与する能力を身につけることができるよう災害保健(高度教養科目)、保健行政論(講義科目)、原書講読、卒業研究を開設する。

なお、これらの科目は、講義・演習・実習等の授業形態に応じて、アクティブラーニング、体験型学習などを適宜組み合わせて行う。
学修成果の評価は、次の方法で行う。
・講義科目については、筆記試験、レポート、参加度等により、学修目標に即して多元的、包括的な方法で到達度を判定する。
・演習・実験・実習及び実技科目については、筆記試験、レポート、参加度、発表内容、実技等により、学修目標に即して多元的、包括的な方法で到達度を判定する。

学位：学士（保健学）
理学療法学専攻
神戸大学のカリキュラム・ポリシーにもとづき、保健学科理学療法学専攻は以下に

示した方針に則りカリキュラムを編成する。

１．「人間性と倫理性」「創造性」「地域性・国際性」を学生に身につけさせるため、すべての学生が履修する共通の科目として、基礎教養科目、総合教養科目、外国語科目、情報科目、健康・スポーツ科学、高度教養科目及びその他必要と認める科目を開設する。
２．深い学識を涵養し、「専門性と協働」を学生に身につけさせるため、以下の専門科目を開設する。(共通専門基礎科目及び学部が開設する高度教養科目を含む)
・医療の基礎学力と高度な専門知識を習得した専門職として、対象者や他専門職と相互に信頼し、良好な人間関係を築くことにより保健医療福祉チームにおいて協働できる能力を身につけることができるよう保健学初年次セミナー、地域看護学概論、保健医療福祉論、保健行政論、国際保健、災害保健などの幅広い保健に関する講義、解剖学、運動学、人間発達学、生理学、病理学といった基礎医学に関する講義と実習、内部障害学、小児疾病論、外科学概論、移植管理学、整形外科学、スポーツ医学、臨床神経学、精神医学といった臨床医学に関する講義、初期体験実習、IPW 概論、IPW 統合演習を通じたチーム医療に関する科目を開設する。

なお、これらの科目は、講義・演習・実習等の授業形態に応じて、アクティブラーニング、体験型学習など適宜組み合わせて行う。
学修成果の評価は、次の方法で行う。
・講義科目については、筆記試験、レポート、参加度等により、学修目標に即して多元的、包括的な方法で到達度を判定する。
・演習・実験・実習及び実技科目については、筆記試験、レポート、参加度、発表内容、実技等により、学修目標に即して多元的、包括的な方法で到達度を判定する。

学位：学士（保健学）
作業療法学専攻
神戸大学のカリキュラム・ポリシーに基づき、医学部保健学科作業療法学専攻は以下の方針に則りカリキュラムを編成する。

１．「人間性と倫理性」「創造性」「地域性・国際性」を学生に身につけさせるため、すべての学生が履修する共通の科目として、基礎教養科目、総合教養科目、高度教養科目、外国語科目、情報科目、健康・スポーツ科学及びその他必要と認める科目を開設する。
２．深い学識を涵養し、「専門性と協働」を学生に身につけさせるため、以下の専門科目を開設する。(共通専門基礎科目及び学部が開設する高度教養科目を含む)
・医療・保健・福祉など各分野における高度な作業療法学の専門的知識および技術を習得するために主体的かつ継続的に学習する能力を身につけることができるよう国際保健、リハビリテーション工学・福祉用具学などの高度教養科目、初期体験実習、現代医療と生命倫理などの共通特論、作業療法概論、作業療法管理学Ⅰ・Ⅱ、基礎作業学、身体障害作業療法学、精神保健作業療法学Ⅰ・Ⅱ、発達障害作業療法学などの講義科目、基礎作業学実習Ⅰ・Ⅱ、身体障害作業療法学実習Ⅰ・Ⅱ、精神保健作業療法学Ⅰ・Ⅱ実習、発達障害作業療法学実習Ⅰ・Ⅱ、臨床実習Ⅰ～Ⅴなどの実習科目、卒業研究などを開設する。
・高度な医療専門職として、チーム医療の現場で関連職種との優れたコーディネート能力を発揮し、協働する能力を身につけることができるよう災害保健、ＩＰＷ統合演習などの高度教養科目、保健学初年次セミナー、ＩＰＷ概論などの

共通特論、リハビリテーション概論、解剖学Ⅱ・Ⅲ、病理学Ⅰ・Ⅱ、精神医学Ⅰ・Ⅱ、在宅援助論などの講義科目、作業療法フィールド実習、リハビリテーション工学・福祉用具学実習、作業療法統合実習などの実習科目を開設する。

なお、これらの科目は、講義・演習・実習等の授業形態に応じて、アクティブラーニング、体験型学習などを適宜組み合わせて行う。

学修成果の評価は、次の方法で行う。

・講義科目については、筆記試験、レポート、参加度等により、学修目標に即して多元的、包括的な方法で到達度を判定する。

・演習・実験・実習及び実技科目については、筆記試験、レポート、参加度、発表内容、実技等により、学修目標に即して多元的、包括的な方法で到達度を判定する。

入学者の受入れに関する方針

（公表方法：HP https://www.kobe-u.ac.jp/campuslife/edu/policy/index.html）

（概要）

医学部保健学科は、「真摯・自由・協同」の精神の下、高い倫理観と科学的視点を持ち、高度な専門的知識・技能を身につけた医療人を養成するために、保健医療・健康科学に関する卓越した教育を提供することを基本理念としています。また、旺盛な探究心と創造性を身につけ、将来、それぞれの専門領域における指導者として、国際的に活躍できる人材の育成を目標としています。このため、次のような学生を求めています。

●医学部保健学科の求める学生像

１．明確な目的意識と旺盛な学習意欲を持った学生

〔求める要素：関心・意欲〕

２．ひとに対する深い思いやりと協調性、優れたコミュニケーション能力を持った学生

〔求める要素：主体性・協働性〕

３．自ら問題を発見し、解決にあたることができる学生

〔求める要素：思考力・判断力・表現力、主体性・協働性〕

４．保健医療・健康科学を学ぶために必要な自然科学および社会科学の基礎知識と日本語・外国語の基礎学力をそなえた学生

〔求める要素：知識・技能〕

※高等学校等で修得しておいてもらいたい内容

「国語」：文章を読み解く力、明確な表現力。

「地歴・公民」：幅広く総合的な知識、様々な社会現象を捉える分析力。

「数学」：数学的思考力、表現力、総合力。

「理科」：自然科学の総合的理解力、論理的思考力。

「英語」：読解力、コミュニケーション力、表現力。

「情報」：情報を科学的に理解する力と活用する力。

●入学者選抜の基本方針

以上のような学生を選抜するために、医学部保健学科のディプロマ・ポリシーおよびカリキュラム・ポリシーを踏まえ、一般選抜では、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・協働性」を測ります。

学部等名　工学部

教育研究上の目的
（公表方法：HP
https://www.kobe-u.ac.jp/ja/about/public-information/education/purpose/）

（概要）
本学部は、各学科の専門分野について幅広い知識及び学際的視点を有する人材、特に複眼的視野を有する創造性豊かな人材を養成するため、専門性、学際性及び実践性を重視した教育研究を行う。

卒業又は修了の認定に関する方針
（公表方法：HP https://www.kobe-u.ac.jp/ja/academics/policy/）

（概要）
神戸大学工学部は、神戸大学ディプロマ・ポリシーに定める人間性、創造性、国際性に加え、各学科の専門分野について幅広い知識及び学際的視点を有する人材、特に複眼的視野を有する創造性豊かな人材、工学に関する知識体系を用いて社会課題の解決に取り組む能力を養成することを目的としている。
この目的を達成するため、以下に示した方針に従って学士の学位を授与する。

学位：学士（工学）

<u>建築学科</u>
神戸大学のディプロマ・ポリシーにもとづき、工学部建築学科は以下に示した方針に従って当該学位を授与する。
・本学部に4年以上在学し、履修要件として定めた所定の単位以上を修得すること。
・神戸大学のディプロマ・ポリシーに定める能力に加え、卒業までに建築学科学生が、身につけておくべき能力を次のとおりとする。
　・幅広い見識と基礎となる工学的素養と理解力。
　・人間生活の基盤である住宅及び建築施設を創造するために必要な「計画」・「構造」・「環境」という建築の基礎的学問領域の知識。
　・これらを総合して現実的課題に対応する具体的解答を導き出す「空間デザイン」の能力。
　・建築学に求められる社会的役割を考え、専門知識を活用して豊かな社会の創出に貢献できる能力。

<u>市民工学科</u>
神戸大学のディプロマ・ポリシーにもとづき、工学部市民工学科は以下に示した方針に従って当該学位を授与する。
・本学部に4年以上在学し、履修要件として定めた所定の単位以上を修得すること。
・神戸大学のディプロマ・ポリシー定める能力に加え、卒業までに、本学部学生が、身につけるべき能力を次のとおりとする。
　・専門基礎学力に関する能力
　・多面的思考・技術者倫理に関する能力
　・実務に関する能力
　・解析ツールおよび先端技術の応用・創造思考に関する能力
　・環境・文化・歴史に関する能力
　・コミュニケーションに関する能力
　・基礎学力に関する能力
　・総合的課題解決に関する能力

電気電子工学科

神戸大学のディプロマ・ポリシーにもとづき、工学部電気電子工学科は以下に示した方針に従って当該学位を授与する。

・本学部に 4 年以上在学し、履修要件として定めた所定の単位以上を修得すること。
・神戸大学のディプロマ・ポリシーに定める能力に加え、卒業までに、電気電子工学科学生が身につけるべき能力を次のとおりとする。
　・幅広い見識及び電気電子工学に関わる基礎学力
　・電子物理分野に関する知識及び専門的能力
　・電子情報分野に関する知識及び専門的能力
　・電気エネルギー制御分野に関する知識及び専門的能力
　・電気電子工学に関する知識を用いて、創造的に思考し、課題解決に取り組む能力

機械工学科

神戸大学のディプロマ・ポリシーにもとづき、工学部機械工学科は以下に示した方針に従って当該学位を授与する。

・本学部に 4 年以上在学し、履修要件として定めた所定の単位以上を修得すること。
・神戸大学のディプロマ・ポリシーに定める能力に加え、卒業までに、本学部学生が、身につけるべき能力を次のとおりとする。
　・幅広い見識および基礎学力
　・熱・流体分野の深い学識と専門的問題解決能力
　・材料物理分野の深い学識と専門的問題解決能力
　・機械制御分野の深い学識と専門的問題解決能力
　・機械設計・生産分野の深い学識と専門的問題解決能力
　・専門知識に立脚した機械工学技術者としての研究開発能力

応用化学科

神戸大学のディプロマ・ポリシーにもとづき、工学部応用化学科は以下に示した方針に従って当該学位を授与する。

・本学部に 4 年以上在学し、履修要件として定めた所定の単位以上を修得すること。
・神戸大学のディプロマ・ポリシー定める能力に加え、卒業までに応用化学科学生が、身につけるべき能力を次のとおりとする。
　・応用化学的な知識に基づく高い倫理性と豊かな人間性
　・応用化学の基礎となる工学的素養と理解力
　・物質化学に関する幅広い学識と専門的能力
　・化学工学に関する幅広い学識と専門的能力
　・応用化学に関する学識を用いて、社会的課題を議論し、解決に取り組む研究能力

情報知能工学科

神戸大学のディプロマ・ポリシーにもとづき、工学部情報知能工学科は以下に示した方針に従って当該学位を授与する。

・本学部に 4 年以上在学し、履修要件として定めた所定の単位以上を修得すること。
・神戸大学のディプロマ・ポリシー定める能力に加え、卒業までに情報知能工学科学生が、身につけるべき能力を次のとおりとする。
　・高度な専門知識を修得し、これを活用する能力
　・幅広い見識を備え、これを活用する能力
　・広い視点から課題にアプローチするための基礎となる能力

・広い視点から課題にアプローチするための応用力・創造的な能力

教育課程の編成及び実施に関する方針
（公表方法：HP https://www.kobe-u.ac.jp/ja/academics/policy/）

（概要）

・建築学科

神戸大学のカリキュラム・ポリシーにもとづき、工学部建築学科は以下の方針に則りカリキュラムを編成する。

１．「人間性」、「創造性」、「国際性」を学生に身につけさせるため、すべての学生が履修する共通の科目として、基礎教養科目、総合教養科目、高度教養科目、外国語科目、初年次セミナー、キャリア科目、情報科目、健康・スポーツ科学及びその他必要と認める科目を開設する。

２．深い学識を涵養し、「専門性」を学生に身につけさせるため、以下の専門科目を開設する。

・幅広い見識と基礎となる工学的素養と理解力を身につけることができるよう共通専門基礎科目群及び建築に関する基礎科目を開設する。

・人間生活の基盤である住宅及び建築施設を創造するために必要な「計画」・「構造」・「環境」という建築の基礎的学問領域の知識を修得できるよう、計画系科目、構造系科目及び環境系科目を開設する。

・修得した知識を総合して現実的課題に対応する具体的解答を導き出す「空間デザイン」の能力を身につけることができるよう、演習科目及び卒業研究・卒業設計を開設する。

・建築学に求められる社会的役割を考え、専門知識を活用して豊かな社会の創出に貢献できる能力を身につけることができるよう、建築倫理、ライフサイクルマネジメント等を開設する。

なお、これらの科目は、授業形態に応じて、アクティブラーニング、体験型学習などを適宜組み合わせて行う。

学修成果の評価は、次の方法で行う。

・講義科目については、筆記試験、レポート、参加度等により、学修目標に即して多元的、包括的な方法で到達度を判定する。

・演習・実験及び実習科目については、筆記試験、レポート、参加度、発表内容等により、学修目標に即して多元的、包括的な方法で到達度を判定する。

・市民工学科

神戸大学のカリキュラム・ポリシーにもとづき、工学部市民工学科は以下の方針に則りカリキュラムを編成する。

1. 「人間性」「創造性」「国際性」を学生に身につけさせるため、すべての学生が履修する共通の科目として、基礎教養科目、総合教養科目、高度教養科目、外国語科目、初年次セミナー、キャリア科目、情報科目、健康・スポーツ科学及びその他必要と認める科目を開設する。
2. 深い学識を涵養し、「専門性」を学生に身につけさせるため、以下の専門科目を開設する。（共通専門基礎科目及び学部が開設する高度教養科目を含む）

・専門基礎学力に関する能力を身につけることができるよう材料工学等を開設する。
・多面的思考・技術者倫理に関する能力を身につけることができるよう市民工学概論等を開設する。
・実務に関する能力を身につけることができるよう学外実習等を開設する。
・解析ツール及び先端技術の応用・創造思考に関する能力を身につけることができるよう土木CAD 製図等を開設する。
・環境・文化・歴史に関する能力を身につけることができるよう地球環境論等を開設する。
・コミュニケーションに関する能力を身につけることができるよう卒業論文指導等を開設する。
・基礎学力に関する能力を身につけることができるよう連続体力学等を開設する。
・総合的課題解決に関する能力を身につけることができるよう卒業論文指導等を開設する。

なお、これらの科目は、授業形態に応じて、アクティブラーニング、体験型学習などを適宜組み合わせて行う。
学修成果の評価は、次の方法で行う。
・講義科目については、筆記試験、レポート、参加度等により、学修目標に即して多元的、包括的な方法で到達度を判定する。
・演習・実験及び実習科目については、筆記試験、レポート、参加度、発表内容等により、学修目標に即して多元的、包括的な方法で到達度を判定する。

・電気電子工学科
神戸大学のカリキュラム・ポリシーにもとづき、工学部電気電子工学科は以下の方針に則りカリキュラムを編成する。

１．「人間性」「創造性」「国際性」を学生に身につけさせるため、すべての学生が履修する共通の科目として、基礎教養科目、総合教養科目、高度教養科目、外国語科目、初年次セミナー、キャリア科目、情報科目、健康・スポーツ科学及びその他必要と認める科目を開設する。
２．深い学識を涵養し、「専門性」を学生に身につけさせるため、以下の専門科目を開設する。
・幅広い見識及び電気電子工学に関わる基礎学力を身につけることができるよう、共通専門基礎科目、電気電子工学科共通科目及び高度教養科目を開設する。
・電子物理分野に関する知識及び専門的能力を身につけることができるよう電子物理工学系科目を開設する。
・電子情報分野に関する知識及び専門的能力を身につけることができるよう電子情報工学系科目を開設する。
・電気エネルギー制御分野に関する知識及び専門的能力を身につけることができるよう電気エネルギー制御工学系科目を開設する。
・電気電子工学に関する知識を用いて、創造的に思考し、課題解決に取り組む能力を身につけることができるよう電気電子工学実験科目及び卒業研究を開設する。

なお、これらの科目は、授業形態に応じて、アクティブラーニング、体験型学習などを適宜組み合わせて行う。

学修成果の評価は、次の方法で行う。
・講義科目については、筆記試験、レポート、参加度等により、学修目標に即して多元的、包括的な方法で到達度を判定する。
・演習・実験及び実習科目については、筆記試験、レポート、参加度、発表内容等により、学修目標に即して多元的、包括的な方法で到達度を判定する。

・機械工学科

神戸大学のカリキュラム・ポリシーにもとづき、工学部機械工学科は以下の方針に則りカリキュラムを編成する。

１．「人間性」「創造性」「国際性」を学生に身につけさせるため、すべての学生が履修する共通の科目として、基礎教養科目、総合教養科目、高度教養科目、外国語科目、初年次セミナー、キャリア科目、情報科目、健康・スポーツ科学及びその他必要と認める科目を開設する。
２．深い学識を涵養し、「専門性」を学生に身につけさせるため、以下の専門科目を開設する。（共通専門基礎科目及び学部が開設する高度教養科目を含む）
・幅広い見識及び基礎学力を身につけることができるよう共通専門科目、機械工学科専門共通科目及び高度教養科目を開設する。
・熱・流体分野の深い学識と専門的問題解決能力を身につけることができるよう機械工学科専門科目群（区分：熱・流体）を開設する。
・材料物理分野の深い学識と専門的問題解決能力を身につけることができるよう機械工学科専門科目群（区分：材料物理）を開設する。
・機械制御分野の深い学識と専門的問題解決能力を身につけることができるよう機械工学科専門科目群（区分：制御）を開設する。
・機械設計・生産分野の深い学識と専門的問題解決能力を身につけることができるよう機械工学科専門科目群（区分：設計・生産）を開設する。
・専門知識に立脚した機械工学技術者としての研究開発能力を身につけることができるよう機械工学科専門科目（区分：実験・実習・演習）及び卒業研究を開設する。

なお、これらの科目は、授業形態に応じて、アクティブラーニング、体験型学習などを適宜組み合わせて行う。
学修成果の評価は、次の方法で行う。
・講義科目については、筆記試験、レポート、参加度等により、学修目標に即して多元的、包括的な方法で到達度を判定する。
・演習・実験及び実習科目については、筆記試験、レポート、参加度、発表内容等により、学修目標に即して多元的、包括的な方法で到達度を判定する。

・応用化学科

神戸大学のカリキュラム・ポリシーにもとづき、工学部応用化学科は以下の方針に則りカリキュラムを編成する。

１．「人間性」「創造性」「国際性」を学生に身につけさせるため、すべての学生が履修する共通の科目として、基礎教養科目、総合教養科目、高度教養科目、外国語科目、初年次セミナー、キャリア科目、情報科目、健康・スポーツ科学及びその他必要と認める科目を開設する。
２．深い学識を涵養し、「専門性」を学生に身につけさせるため、以下の専門科目を開設する。
・応用化学科における学修の目的や方法、学問に対するリテラシーを習得し、

化学の視点から高い倫理性と豊かな人間性を身につけることができるよう導入教育科目群を開設する。
・応用化学の基礎となる工学的素養と理解力を身につけることができるよう共通専門基礎科目群を開設する。
・物質化学、化学工学の両分野に跨がる幅広い学識と専門的能力を身につけることができるよう物理化学科目群を開設する。
・物質化学に関する幅広い学識と専門的能力を身につけることができるよう無機・分析化学科目群及び有機・高分子化学科目群を開設する。
・化学工学に関する幅広い学識と専門的能力を身につけることができるよう移動現象・プロセス工学科目群、分離工学科目群および反応工学・生物化学工学科目群を開設する。
・応用化学に関する学識を用いて、社会的課題を議論し、解決に取り組む研究能力を身につけることができるよう特別講義科目群、卒業研究科目群を開設する。

なお、これらの科目は、授業形態に応じて、アクティブラーニング、体験型学習などを適宜組み合わせて行う。
学修成果の評価は、次の方法で行う。
・講義科目については、筆記試験、レポート、参加度等により、学修目標に即して多元的、包括的な方法で到達度を判定する。
・演習・実験及び実習科目については、筆記試験、レポート、参加度、発表内容等により、学修目標に即して多元的、包括的な方法で到達度を判定する。

・情報知能工学科
神戸大学のカリキュラム・ポリシーにもとづき、工学部情報知能工学科は以下の方針に則りカリキュラムを編成する。

1. 「人間性」「創造性」「国際性」を学生に身につけさせるため、すべての学生が履修する共通の科目として、基礎教養科目、総合教養科目、高度教養科目、外国語科目、初年次セミナー、キャリア科目、情報科目、健康・スポーツ科学及びその他必要と認める科目を開設する。
2. 深い学識を涵養し、「専門性」を学生に身につけさせるため、以下の専門科目を開設する。(共通専門基礎科目及び学部が開設する高度教養科目を含む)
・高度な専門知識を修得し、これを活用する能力を身につけることができるよう高度専門科目群を開設する。
・幅広い見識を備え、これを活用する能力を身につけることができるよう総合専門科目群を開設する。
・広い視点から課題にアプローチするための基礎となる能力を身につけることができるよう基礎専門科目群を開設する。
・広い視点から課題にアプローチするための応用的・創造的な能力を身につけることができるよう応用専門科目群を開設する。

なお、これらの科目は、授業形態に応じて、アクティブラーニング、体験型学習などを適宜組み合わせて行う。
学修成果の評価は、次の方法で行う。
・講義科目については、筆記試験、レポート、参加度等により、学修目標に即して多元的、包括的な方法で到達度を判定する。
・演習・実験及び実習科目については、筆記試験、レポート、参加度、発表内容等により、学修目標に即して多元的、包括的な方法で到達度を判定する。

入学者の受入れに関する方針 （公表方法：HP https://www.kobe-u.ac.jp/campuslife/edu/policy/index.html）
（概要） 工学部では、地球環境をまもりながら、安全・安心かつ快適で豊かさを感じられる持続可能な社会を実現するための科学・技術を探求しています。そのために、各学科の研究する最先端科学・技術分野で必須となる基礎的な学識を身に付けた上で、国際社会で創造的・先端的な役割を担い、次世代を切り拓いてゆく技術者や研究者の育成を目標に、神戸大学アドミッション・ポリシーが定める神戸大学が求める学生像に加え、特に次のような学生を求めています。 ●工学部の求める学生像 １．旺盛な好奇心と探求心を持つ学生 〔求める要素：関心・意欲〕 ２．自由な発想と批判的精神を持つ学生 〔求める要素：思考力・判断力・表現力〕 ３．国際的な活動に積極的に取り組む学生 〔求める要素：主体性・協働性、関心・意欲〕 ４．科学と技術を通じて、地球環境と人類社会との共生・調和に貢献しようとする学生 〔求める要素：知識・技能、主体性・協働性、関心・意欲〕 ※高等学校等で修得しておいてもらいたい内容 「国語」：文章を読み解く力、論理を正確に伝えるための作文力。 「地歴・公民」：人類社会と地球環境の関係など様々な社会現象を正確に捉える分析力。 「数学」：数学的（論理的）解析力・思考力、定式化により論理を記述する表現力。 「理科」：自然現象を対象とした観察力・分析力、および、思考の展開力。 「英語」：高い語彙力を備えた読解力・作文力に加え、国際社会を見据えたコミュニケーション力。 「情報」：情報を科学的に理解する力と活用する力。 ●入学者選抜の基本方針 以上のような学生を選抜するために、工学部のディプロマ・ポリシーおよびカリキュラム・ポリシーを踏まえ、一般選抜では、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」を測ります。

学部等名　農学部
教育研究上の目的 （公表方法：HP https://www.kobe-u.ac.jp/ja/about/public-information/education/purpose/）
（概要） 本学部は、広範な知識を授けるとともに、食料・環境・健康生命に代表される農学の諸課題を探求することによって、持続共生社会を構築するための技術及び知的基盤の創成を教育研究上の目的とする。

卒業又は修了の認定に関する方針
（公表方法：HP https://www.kobe-u.ac.jp/ja/academics/policy/）

（概要）
神戸大学農学部は、農学を核とする広範な知識を授けるとともに、食料・環境・健康生命に代表される農学の諸課題を探究することによって、持続共生社会を構築するための知識と技術を備えた人材を育成し、知的基盤を創成することを目的としている。
この目的を達成するため、以下に示した方針に従って学士の学位を授与する。

学位：学士（農学）

食料環境システム学科生産環境工学コース
神戸大学のディプロマ・ポリシーにもとづき、農学部食料環境システム学科生産環境工学コースは以下に示した方針に従って当該学位を授与する。
・本学部に4年以上在学し、履修要件として定めた所定の単位以上を修得すること。
・神戸大学のディプロマ・ポリシーに定める能力に加え、卒業までに、本コース学生が、身につけるべき能力を次のとおりとする。
　・食や農に関わる工学的分野の基盤となる知識を体系的に理解・応用することができる。
　・高い倫理観と使命感をもって、食や農に関わる工学的分野の研究を批判的に検討し、課題を適切に設定することができる。
　・食や農に関わる工学的分野の専門知識にもとづき、実験・調査を行い、解析を行うことができる。
　・食や農に関わる工学的分野の専門知識や技術を、社会的課題の解決策として活用することができる。

食料環境システム学科食料環境経済学コース
神戸大学のディプロマ・ポリシーにもとづき、農学部食料環境システム学科食料環境経済学コースは以下に示した方針に従って当該学位を授与する。
・本学部に4年以上在学し、履修要件として定めた所定の単位以上を修得すること。
・神戸大学のディプロマ・ポリシーに定める能力に加え、卒業までに、本コース学生が、身につけるべき能力を次のとおりとする。
　・食や農に関わる社会経済的分野の基盤となる知識を体系的に理解・応用することができる。
　・高い倫理観と使命感をもって、食や農に関わる社会経済的分野の研究を批判的に検討し、課題を適切に設定することができる。
　・食や農に関わる社会経済的分野の専門知識にもとづき、情報収集・社会調査を行い、分析を行うことができる。
　・食や農に関わる社会経済的分野の専門知識を、社会的課題の解決策として活用することができる。

資源生命科学科応用動物学コース
神戸大学のディプロマ・ポリシーにもとづき、農学部資源生命科学科応用動物学コースは以下に示した方針に従って当該学位を授与する。
・本学部に4年以上在学し、履修要件として定めた所定の単位以上を修得すること。
・神戸大学のディプロマ・ポリシーに定める能力に加え、卒業までに、本コース学生が、身につけるべき能力を次のとおりとする。
　・食や農に関わる動物科学分野の基盤となる知識を体系的に理解・応用することができる。
　・高い倫理観と使命感をもって、食や農に関わる動物科学分野の研究を批判的に

検討し、課題を適切に設定することができる。
・食や農に関わる動物科学分野の専門知識にもとづき、実験・情報収集・調査を行い、分析を行うことができる。
・食や農に関わる動物科学分野の専門知識や技術を、社会的課題の解決策として活用することができる。

資源生命科学科応用植物学コース

神戸大学のディプロマ・ポリシーにもとづき、農学部資源生命科学科応用植物学コースは以下に示した方針に従って当該学位を授与する。

・本学部に4年以上在学し、履修要件として定めた所定の単位以上を修得すること。
・神戸大学のディプロマ・ポリシーに定める能力に加え、卒業までに、本コース学生が、身につけるべき能力を次のとおりとする。
・食や農に関わる植物科学分野の基盤となる知識を体系的に理解・応用することができる。
・高い倫理観と使命感をもって、食や農に関わる植物科学分野の研究を批判的に検討し、課題を適切に設定することができる。
・食や農に関わる植物科学分野の専門知識にもとづき、観察・実験を行い、分析を行うことができる。
・食や農に関わる植物科学分野の専門知識や技術を、社会的課題の解決策として活用することができる。

生命機能科学科応用生命化学コース

神戸大学のディプロマ・ポリシーにもとづき、農学部生命機能科学科応用生命化学コースは以下に示した方針に従って当該学位を授与する。

・本学部に4年以上在学し、履修要件として定めた所定の単位以上を修得すること。
・神戸大学のディプロマ・ポリシーに定める能力に加え、卒業までに、本コース学生が、身につけるべき能力を次のとおりとする。
・食や農に関わる生命化学分野の基盤となる知識を体系的に理解・応用することができる。
・高い倫理観と使命感をもって、食や農に関わる生命化学分野の研究を批判的に検討し、課題を適切に設定することができる。
・食や農に関わる生命化学分野の専門知識や技術にもとづき、情報収集・実験を行い、分析することができる。
・食や農に関わる生命化学分野の専門知識や技術を、社会的課題の解決策として活用することができる。

生命機能科学科応用機能生物学コース

神戸大学のディプロマ・ポリシーにもとづき、農学部生命機能科学科応用機能生物学コースは以下に示した方針に従って当該学位を授与する。

・本学部に4年以上在学し、履修要件として定めた所定の単位以上を修得すること。
・神戸大学のディプロマ・ポリシーに定める能力に加え、卒業までに、本コース学生が、身につけるべき能力を次のとおりとする。
・食や農に関わる生物学分野の基盤となる知識を体系的に理解・応用することができる。
・高い倫理観と使命感をもって、食や農に関わる生物学分野の研究を批判的に検討し、課題を適切に設定することができる。
・食や農に関わる生物学分野の専門知識にもとづき、実験・調査を行い、分析を行うことができる。
・食や農に関わる生物学分野の専門知識や技術を、社会的課題の解決策として活

用することができる。

教育課程の編成及び実施に関する方針
（公表方法：HP https://www.kobe-u.ac.jp/ja/academics/policy/）

（概要）
神戸大学のカリキュラム・ポリシーにもとづき、農学部は以下の方針に則りカリキュラムを編成する。

１．「人間性」「創造性」「国際性」を学生に身につけさせるため、すべての学生が履修する共通の科目として、基礎教養科目、総合教養科目、高度教養科目、外国語科目、初年次セミナー、キャリア科目、情報科目、健康・スポーツ科学及びその他必要と認める科目を開設する。
２．深い学識を涵養し、「専門性」を学生に身につけさせるため、以下の専門科目を開設する。（共通専門基礎科目及び学部が開設する高度教養科目を含む）

<u>食料環境システム学科生産環境工学コース</u>
・「食や農に関わる工学的分野の基盤となる知識を体系的に理解・応用する能力」を身につけることができるよう共通専門基礎科目を置く。
・「高い倫理観と使命感をもって、食や農に関わる工学的分野の研究を批判的に検討し、課題を適切に設定する能力」および「食や農に関わる工学的分野の専門知識にもとづき、実験・調査を行い、解析を行う能力」を身につけることができるよう専門科目を開設する。
・「食や農に関わる工学的分野の専門知識や技術を、社会的課題の解決策として活用する能力」を身につけることができるよう専門科目および高度教養科目を開設する。

なお、これらの科目は、講義・演習・実験・実習等の授業形態に応じて、アクティブラーニング、体験型学習などを適宜組み合わせて行う。
学修成果の評価は、次の方法で行う。
・講義科目については、筆記試験、レポート、参加度等により、学修目標に即して多元的、包括的な方法で到達度を判定する。
・演習・実験・実習科目等については、筆記試験、レポート、参加度、発表内容等により、学修目標に即して多元的、包括的な方法で到達度を判定する。

<u>食料環境システム学科食料環境経済学コース</u>
・「食や農に関わる社会経済的分野の基盤となる知識を体系的に理解・応用する能力」を身につけることができるよう共通専門基礎科目を置く。
・「高い倫理観と使命感をもって、食や農に関わる社会経済的分野の研究を批判的に検討し、課題を適切に設定する能力」および「食や農に関わる社会経済的分野の専門知識にもとづき、情報収集・社会調査を行い、分析を行う能力」を身につけることができるよう専門科目を開設する。
・「食や農に関わる社会経済的分野の専門知識を、社会的課題の解決策として活用する能力」を身につけることができるよう専門科目および高度教養科目を開設する。

なお、これらの科目は、講義・演習・実習等の授業形態に応じて、アクティブラーニング、体験型学習などを適宜組み合わせて行う。
学修成果の評価は、次の方法で行う。
・講義科目については、筆記試験、レポート、参加度等により、学修目標に即して多元的、包括的な方法で到達度を判定する。
・演習・実習科目等については、筆記試験、レポート、参加度、発表内容等により、学修目標に即して多元的、包括的な方法で到達度を判定する。

<u>資源生命科学科応用動物学コース</u>
・「食や農に関わる動物科学分野の基盤となる知識を体系的に理解・応用する能力」を身につけることができるよう共通専門基礎科目を置く。
・「高い倫理観と使命感をもって、食や農に関わる動物科学分野の研究を批判的に検討し、課題を適切に設定する能力」および「食や農に関わる動物科学分野の専門知識にもとづき、実験・情報収集・調査を行い、分析を行う能力」を身につけることができるよう専門科目を開設する。
・「食や農に関わる動物科学分野の専門知識を、社会的課題の解決策として活用する能力」を身につけることができるよう専門科目および高度教養科目を開設する。

なお、これらの科目は、講義・演習・実験・実習等の授業形態に応じて、アクティブラーニング、体験型学習などを適宜組み合わせて行う。
学修成果の評価は、次の方法で行う。
・講義科目については、筆記試験、レポート、参加度等により、学修目標に即して多元的、包括的な方法で到達度を判定する。
・演習・実験・実習科目等については、筆記試験、レポート、参加度、発表内容等により、学修目標に即して多元的、包括的な方法で到達度を判定する。

<u>資源生命科学科応用植物学コース</u>
・「食や農に関わる植物科学分野の基盤となる知識を体系的に理解・応用する能力」を身につけることができるよう共通専門基礎科目を置く。
・「高い倫理観と使命感をもって、食や農に関わる植物科学分野の研究を批判的に検討し、課題を適切に設定する能力」および「食や農に関わる植物科学分野の専門知識にもとづき、観察・実験を行い、分析を行う能力」を身につけることができるよう専門科目を開設する。
・「食や農に関わる植物科学分野の専門知識や技術を、社会的課題の解決策として活用する能力」を身につけることができるよう専門科目および高度教養科目を開設する。

なお、これらの科目は、講義・演習・実験・実習等の授業形態に応じて、アクティブラーニング、体験型学習などを適宜組み合わせて行う。
学修成果の評価は、次の方法で行う。
・講義科目については、筆記試験、レポート、参加度等により、学修目標に即して多元的、包括的な方法で到達度を判定する。
・演習・実験・実習科目等については、筆記試験、レポート、参加度、発表内容等により、学修目標に即して多元的、包括的な方法で到達度を判定する。

<u>生命機能科学科応用生命化学コース</u>
・「食や農に関わる生命化学分野の基盤となる知識を体系的に理解・応用する能力」を身につけることができるよう共通専門基礎科目を置く。

・「高い倫理観と使命感をもって、食や農に関わる生命化学分野の研究を批判的に検討し、課題を適切に設定する能力」および「食や農に関わる生命化学分野の専門知識や技術にもとづき、情報収集・実験を行い、分析を行う能力」を身につけることができるよう専門科目を開設する。
・「食や農に関わる生命化学分野の専門知識を、社会的課題の解決策として活用する能力」を身につけることができるよう専門科目および高度教養科目を開設する。

なお、これらの科目は、講義・演習・実験・実習等の授業形態に応じて、アクティブラーニング、体験型学習などを適宜組み合わせて行う。
学修成果の評価は、次の方法で行う。
・講義科目については、筆記試験、レポート、参加度等により、学修目標に即して多元的、包括的な方法で到達度を判定する。
・演習・実験・実習科目等については、筆記試験、レポート、参加度、発表内容等により、学修目標に即して多元的、包括的な方法で到達度を判定する。

<u>生命機能科学科応用機能生物学コース</u>
・「食や農に関わる生物学分野の基盤となる知識を体系的に理解・応用する能力」を身につけることができるよう共通専門基礎科目を置く。
・「高い倫理観と使命感をもって、食や農に関わる生物学分野の研究を批判的に検討し、課題を適切に設定する能力」および「食や農に関わる生物学分野の専門知識にもとづき、情報収集や調査・検証を行い、分析を行う能力」を身につけることができるよう専門科目を開設する。
・「食や農に関わる生物学分野の専門知識や技術を、社会的課題の解決策として活用する能力」を身につけることができるよう専門科目および高度教養科目を開設する。

なお、これらの科目は、講義・演習・実験・実習等の授業形態に応じて、アクティブラーニング、体験型学習などを適宜組み合わせて行う。
学修成果の評価は、次の方法で行う。
・講義科目については、筆記試験、レポート、参加度等により、学修目標に即して多元的、包括的な方法で到達度を判定する。
・演習・実験・実習科目等については、筆記試験、レポート、参加度、発表内容等により、学修目標に即して多元的、包括的な方法で到達度を判定する。

入学者の受入れに関する方針
（公表方法：HP https://www.kobe-u.ac.jp/campuslife/edu/policy/index.html）

（概要）
農学部では、食料・環境・健康生命をキーワードとし、農場から食卓までの諸課題の解決を通じて、人類の生存と福祉に貢献することを理念としています。
これに基づき、自然科学や社会科学を含む総合科学である農学を基礎とした幅広く深い教養に加えて国際感覚と豊かな人間性をそなえ、食料の安定供給、環境保全と新規バイオ産業の創生および食の安全安心に向けた研究や技術開発を通じて地域および国際社会に貢献できる人材の養成を目標として、次のような学生を求めています。

●農学部の求める学生像
１．日本語や英語の基礎的な理解力、表現力などのコミュニケーション能力を身につけている学生
〔求める要素：知識・技能、思考力・判断力・表現力〕
２．自然科学および社会科学の基礎を十分に理解できる学生

〔求める要素：知識・技能、思考力・判断力・表現力〕
３．人間と自然のかかわり合いに強い関心を持ち、未知の現象の解明や独創的な技術開発に意欲的に取り組める学生
〔求める要素：思考力・判断力・表現力、関心・意欲〕
４．地域および国際的な社会活動に高い意欲を有する学生
〔求める要素：主体性・協働性、関心・意欲〕

※高等学校等で修得しておいてもらいたい内容
「国語」：文章を読み解く力、明確な表現力。
「地歴・公民」：幅広く総合的な知識、様々な社会現象を捉える分析力。
「数学」：数学的思考力、表現力、総合力。
「理科」：自然科学の総合的理解力、論理的思考力。
「英語」：読解力、コミュニケーション力、表現力。
「情報」：情報を科学的に理解する力と活用する力。

●入学者選抜の基本方針
以上のような学生を選抜するために、農学部のディプロマ・ポリシーおよびカリキュラム・ポリシーを踏まえ、一般選抜では、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」を測ります。

学部等名　海洋政策科学部
教育研究上の目的 （公表方法：HP https://www.kobe-u.ac.jp/ja/about/public-information/education/purpose/）
（概要） 海洋基礎科学分野、海洋応用科学分野、海洋ガバナンス分野及び海技士養成に係る商船学分野を対象とした教育研究を行い、人間と海との関わりに関する深い洞察力を身に付け、海洋の科学的探究、海洋環境の保全、海洋の持続可能な開発・利用と海事・海洋産業の発展、海洋に係る法秩序の安定、国際的協調と総合的管理に貢献し、将来の海洋立国を牽引する「海のグローバルリーダー」及び「海のエキスパート」となり得る人材を育成することを目的とする。
卒業又は修了の認定に関する方針 （公表方法：HP https://www.kobe-u.ac.jp/ja/academics/policy/）
（概要） 神戸大学海洋政策科学部は、海事海洋に関する専門性を備え、新たな海洋立国への挑戦という社会の要請に応えて海洋立国を牽引できる俯瞰力を身につけ、海洋分野における多様かつ複雑な社会的課題の解決のため、真に活躍できる人材を育成することを目的としている。 この目的を達成するため、以下に示した方針に従って学士の学位を授与する。 **学位：学士（海洋政策科学）** **<u>海洋政策科学科</u>** 神戸大学のディプロマ・ポリシーに基づき、海洋政策科学部は以下に示した方針に従って当該学位を授与する。 (1) 本学部に４年以上在学し、履修要件として定めた所定の単位以上を修得すること。 (2) 神戸大学のディプロマ・ポリシーに定める能力に加え、卒業までに本学部学生

が身につけるべき能力を次のとおりとする。
・海洋に関する教養的知識、語学力（英語）とそれらに基づくコミュニケーション能力
・海洋を巡る国際秩序の安定化や海洋開発・海洋産業の発展・振興のために主体性・協働性を持って取り組み、貢献する能力
・海洋に関する自然科学、科学技術及び社会科学の専門的知識及び技能
・修得した知識・技能を総合的に活用し、海洋分野の諸課題の発見や解決を図るための柔軟な思考力と対応能力

学位：学士（商船学）

<u>海洋政策科学科海技ライセンスコース</u>

神戸大学のディプロマ・ポリシーに基づき、海洋政策科学部は以下に示した方針に従って当該学位を授与する。

(1) 本学部に４年以上在学し、履修要件として定めた所定の単位以上を修得すること。

(2) 神戸大学のディプロマ・ポリシーに定める能力に加え、卒業までに本学部学生が身につけるべき能力を次のとおりとする。
・海洋に関する教養的知識、語学力（英語）とそれらに基づくコミュニケーション能力
・海洋を巡る国際秩序の安定化や海洋開発・海洋産業の発展・振興のために主体性・協働性を持って取り組み、貢献する能力
・船舶運航及び海上輸送に関わるシステム全体を管理・評価できる専門的能力及び技能
・修得した知識・技能を総合的に活用し、海洋分野の諸課題の発見や解決を図るための柔軟な思考力と対応能力

教育課程の編成及び実施に関する方針
（公表方法：HP https://www.kobe-u.ac.jp/ja/academics/policy/）

（概要）
学位「学士（海洋政策科学）」

<u>海洋政策科学科</u>

神戸大学のカリキュラム・ポリシーに基づき、海洋政策科学部は以下の方針に則りカリキュラムを編成する。

(1) 「人間性」「創造性」「国際性」を学生に身につけさせるため、すべての学生が履修する共通の科目として、基礎教養科目、総合教養科目、高度教養科目、外国語科目、初年次セミナー、キャリア科目、情報科目、健康・スポーツ科学及びその他必要と認める科目を開設する。

(2) 深い学識を涵養し、「専門性」を学生に身につけさせるため、以下の専門科目を開設する。
●海洋に関する教養的知識、語学力（英語）とそれらに基づくコミュニケーション能力を身につけることができる「海洋リテラシー科目」を開設する。（共通専門基礎科目及び学部が開設する高度教養科目を含む）
●海洋を巡る国際秩序の安定化や海洋開発・海洋産業の発展・振興のために主体性・協働性を持って取り組み、貢献する能力を身につけることができる「海洋専門基礎科目」を開設する。
●海洋に関する自然科学、科学技術及び社会科学の専門的知識及び技能を身につけることができる「主専門科目(海洋基礎科学領域、海洋応用科学領域、海洋ガ

バナンス領域)」を開設する。

●修得した知識・技能を総合的に活用し、海洋分野の諸課題の発見や解決を図るための柔軟な思考力と対応能力を身につけることができる「海洋総合科目」を開設する。

なお、これらの科目は、講義・実技・実習等の授業形態に応じて、アクティブ・ラーニング、体験型学習などを適宜組み合わせて行う。学修成果の評価は、次の方法で行う。

・講義科目については、筆記試験、レポート、参加度等により、学修目標に即して多元的、包括的な方法で到達度を判定する。

・演習・実験・実習及び実技科目については、筆記試験、レポート、参加度、発表内容、実技等により、学修目標に即して多元的、包括的な方法で到達度を判定する。

学位「学士（商船学）」

<u>海洋政策科学科海技ライセンスコース</u>

神戸大学のカリキュラム・ポリシーに基づき、海洋政策科学部は以下の方針に則りカリキュラムを編成する。

(1) 「人間性」「創造性」「国際性」を学生に身につけさせるため、すべての学生が履修する共通の科目として、基礎教養科目、総合教養科目、高度教養科目、外国語科目、初年次セミナー、キャリア科目、情報科目、健康・スポーツ科学及びその他必要と認める科目を開設する。

(2) 深い学識を涵養し、「専門性」を学生に身につけさせるため、以下の専門科目を開設する。

●海洋に関する教養的知識、語学力（英語）とそれらに基づくコミュニケーション能力を身につけることができる「海洋リテラシー科目」を開設する。（共通専門基礎科目及び学部が開設する高度教養科目を含む）

●海洋を巡る国際秩序の安定化や海洋開発・海洋産業の発展・振興のために主体性・協働性を持って取り組み、貢献する能力を身につけることができる「海洋専門基礎科目」を開設する。

●船舶運航及び海上輸送に関わるシステム全体を管理・評価できる専門的能力及び技能を身につけることができる「主専門科目(海技ライセンスコース：航海学領域、機関学領域)」を開設する。

●修得した知識・技能を総合的に活用し、海洋分野の諸課題の発見や解決を図るための柔軟な思考力と対応能力を身につけることができる「海洋総合科目」を開設する。

なお、これらの科目は、講義・実技・実習等の授業形態に応じて、アクティブ・ラーニング、体験型学習などを適宜組み合わせて行う。学修成果の評価は、次の方法で行う。

・講義科目については、筆記試験、レポート、参加度等により、学修目標に即して多元的、包括的な方法で到達度を判定する。

・演習・実験・実習及び実技科目については、筆記試験、レポート、参加度、発表内容、実技等により、学修目標に即して多元的、包括的な方法で到達度を判定する。

入学者の受入れに関する方針
（公表方法：HP https://www.kobe-u.ac.jp/campuslife/edu/policy/index.html）

（概要）
　海洋政策科学部では、海洋の持続可能な開発・利用と海洋環境の保全、海洋産業の発展、海洋進化の科学的探求、海洋に係る法秩序の安定、国際的協調と総合的管理に貢献できる人材の社会への輩出を目指しています。海洋に対する幅広い教養を基に、豊かな国際性、人間性、創造性を有し、海洋に関する自然科学、科学技術および海洋ガバナンスに係る専門性を身につけた海のグローバルリーダーとエキスパートを育成します。そのために、本学部の教育・研究理念を理解し、本学のカリキュラムに則って将来の海洋社会へ貢献するために自己研鑽できる以下のような学生を求めています。

●海洋政策科学部の求める学生像
１．海洋に関わる自然科学、科学技術および海洋政策に興味を持つ学生、また海や船に関わる社会への貢献に関心や意欲のある学生
　〔求める要素：関心・意欲〕
２．海洋を巡る国際秩序の安定や海洋開発・海洋産業技術分野へ貢献するために必要な主体性や協働性を意識して学べる学生
　〔求める要素：主体性・協働性〕
３．海洋分野における自然科学、科学技術および社会科学の知識を基盤として、問題の発見と解決のために意欲的に取り組める学生
　〔求める要素：思考力・判断力・表現力〕
４．海洋に関する幅広い教養と専門知識・技術を修得し、語学力(英語)とそれらに基づくコミュニケーション能力の向上に意欲的に取り組める学生
　〔求める要素：知識・技能〕

　※高等学校等で修得しておいてもらいたい内容
　「国語」：文章を読み解く力、明確な表現力。
　「地歴・公民」：幅広く総合的な知識、様々な社会現象を捉える分析力。
　「数学」：数学的思考力、表現力、総合力。
　「理科」：自然科学の総合的理解力、論理的思考力。
　「英語」：読解力、コミュニケーション力、表現力。
　「情報」：情報を科学的に理解する力と活用する力。

●入学者選抜の基本方針
以上のような学生を選抜するために、海洋政策科学部のディプロマ・ポリシーおよびカリキュラム・ポリシーを踏まえ、一般選抜では、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」を測ります。

②教育研究上の基本組織に関すること

公表方法：ウェブサイトにて公表
（http://www.kobe-u.ac.jp/campuslife/edu/education_info/organization.html）

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

a. 教員数（本務者）							
学部等の組織の名称	学長・副学長	教授	准教授	講師	助教	助手その他	計
－	13 人	－					13 人
戦略企画室	－	4 人	3 人	0 人	0 人	0 人	7 人
産官学連携本部	－	1 人	0 人	0 人	0 人	0 人	1 人
地域連携推進本部	－	0 人	2 人	0 人	0 人	0 人	2 人
DX・情報統括本部	－	3 人	3 人	0 人	2 人	0 人	8 人
カーボンニュートラル推進本部	－	2 人	0 人	0 人	0 人	0 人	2 人
大学文書史料室	－	0 人	0 人	0 人	1 人	0 人	1 人
安全保障輸出管理室	－	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
学術研究推進機構	－	2 人	1 人	0 人	0 人	0 人	3 人
大学教育推進機構	－	12 人	10 人	8 人	12 人	0 人	42 人
国際連携推進機構	－	0 人	1 人	0 人	0 人	0 人	1 人
バリュースクール	－	1 人	1 人	0 人	0 人	0 人	2 人
大学院人文学研究科	－	23 人	13 人	14 人	6 人	1 人	57 人
大学院国際文化学研究科	－	31 人	13 人	11 人	7 人	0 人	62 人
大学院人間発達環境学研究科	－	41 人	28 人	0 人	21 人	0 人	90 人
国際人間科学部（鶴甲第一キャンパス）	－	0 人	1 人	0 人	2 人	0 人	3 人
国際人間科学部（鶴甲第二キャンパス）	－	0 人	0 人	1 人	1 人	0 人	2 人
大学院法学研究科	－	38 人	10 人	0 人	2 人	5 人	55 人
大学院経済学研究科	－	28 人	7 人	5 人	0 人	2 人	42 人
大学院経営学研究科	－	33 人	17 人	0 人	4 人	4 人	58 人
大学院理学研究科	－	37 人	25 人	9 人	17 人	2 人	90 人
医学部	－	0 人	0 人	0 人	2 人	0 人	2 人
大学院医学研究科	－	60 人	47 人	23 人	81 人	0 人	211 人
大学院医学研究科附属動物実験施設	－	0 人	1 人	0 人	0 人	0 人	1 人
大学院医学研究科附属感染症センター	－	2 人	1 人	0 人	4 人	1 人	8 人
医学部附属病院	－	15 人	17 人	39 人	122 人	0 人	193 人
大学院保健学研究科	－	22 人	18 人	7 人	20 人	1 人	68 人
工学部	－	0 人	0 人	0 人	1 人	0 人	1 人

大学院工学研究科	―	44 人	38 人	4 人	23 人	3 人	112 人
大学院システム情報学研究科	―	18 人	9 人	1 人	10 人	0 人	38 人
大学院農学研究科	―	28 人	23 人	1 人	24 人	1 人	77 人
大学院農学研究科附属食資源教育研究センター	―	1 人	1 人	0 人	2 人	0 人	4 人
大学院海事科学研究科	―	24 人	31 人	2 人	8 人	1 人	66 人
大学院海事科学研究科附属国際海事研究センター	―	1 人	2 人	0 人	0 人	0 人	3 人
大学院海事科学研究科附属練習船海神丸	―	1 人	0 人	1 人	0 人	0 人	2 人
大学院国際協力研究科	―	11 人	8 人	0 人	3 人	0 人	22 人
大学院科学技術イノベーション研究科	―	17 人	12 人	2 人	6 人	4 人	41 人
バイオシグナル総合研究センター	―	7 人	5 人	1 人	6 人	1 人	20 人
内海域環境教育研究センター	―	4 人	2 人	1 人	1 人	0 人	8 人
都市安全研究センター	―	8 人	5 人	0 人	0 人	1 人	14 人
分子フォトサイエンス研究センター	―	3 人	2 人	0 人	0 人	3 人	8 人
海洋底探査センター	―	4 人	1 人	0 人	5 人	0 人	10 人
社会システムイノベーションセンター	―	6 人	0 人	0 人	0 人	0 人	6 人
経済経営研究所	―	9 人	9 人	0 人	5 人	3 人	26 人
経済経営研究所附属企業資料総合センター	―	0 人	0 人	1 人	0 人	0 人	1 人
研究基盤センター	―	1 人	0 人	0 人	3 人	0 人	4 人
環境保全推進センター	―	0 人	1 人	0 人	1 人	0 人	2 人
インクルーシブキャンパス&ヘルスケアセンター	―	1 人	1 人	1 人	3 人	0 人	6 人
キャリアセンター	―	1 人	0 人	0 人	0 人	0 人	1 人
数理・データサイエンスセンター	―	6 人	1 人	0 人	1 人	0 人	8 人
計算社会科学研究センター	―	4 人	0 人	2 人	2 人	1 人	9 人
先端バイオ工学研究センター	―	3 人	9 人	0 人	9 人	7 人	28 人
先端膜工学研究センター	―	5 人	0 人	0 人	10 人	0 人	15 人
未来医工学研究開発センター	―	5 人	1 人	3 人	1 人	0 人	10 人
次世代光散乱イメージング科学研究センター	―	1 人	0 人	0 人	0 人	0 人	1 人

ウェルビーイング先端研究センター	－	1 人	0 人	0 人	0 人	0 人	1 人
水素・未来エネルギー技術研究センター	－	1 人	0 人	0 人	1 人	0 人	2 人
医学部附属病院国際がん医療・研究センター	－	1 人	0 人	1 人	3 人	0 人	5 人

b. 教員数（兼務者）

学長・副学長	学長・副学長以外の教員	計
0 人	1,040 人	1,040 人

各教員の有する学位及び業績 （教員データベース等）	公表方法：ウェブサイトにて公表 （https://www.kobe-u.ac.jp/campuslife/edu/education_info/teacher.html）

c. ＦＤ（ファカルティ・ディベロップメント）の状況（任意記載事項）

④入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

a. 入学者の数、収容定員、在学する学生の数等

学部等名	入学定員 (a)	入学者数 (b)	b/a	収容定員 (c)	在学生数 (d)	d/c	編入学 定員	編入学 者数
文学部	100 人	107 人	107.0%	400 人	447 人	111.8%	若干人	0 人
国際人間科学部	370 人	381 人	103.0%	1,500 人	1,611 人	107.4%	10 人	4 人
法学部	180 人	185 人	102.8%	760 人	794 人	104.5%	20 人	9 人
経済学部	270 人	280 人	103.7%	1,120 人	1,283 人	114.6%	20 人	16 人
経営学部	260 人	264 人	101.5%	1,080 人	1,193 人	110.5%	20 人	17 人
理学部	153 人	161 人	105.2%	662 人	722 人	109.1%	25 人	24 人
医学部	272 人	277 人	101.8%	1,337 人	1,378 人	103.1%	5 人	5 人
工学部	565 人	579 人	102.5%	2,300 人	2,466 人	107.2%	20 人	29 人
農学部	160 人	165 人	103.1%	660 人	682 人	103.3%	10 人	3 人
海洋政策科学部	200 人	200 人	100.0%	820 人	817 人	99.6%	10 人	7 人
海事科学部					67 人	%		
合計	2,530 人	2,599 人	102.7%	10,639 人	11,460 人	107.7%	140 と若干人	114 人

（備考）海事科学部は、令和３年度より学生募集停止。

b. 卒業者数、修了者数、進学者数、就職者数

学部等名	卒業者数・修了者数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
文学部	104 人 (100%)	13 人 (12.5%)	82 人 (78.8%)	9 人 (8.7%)
国際人間科学部	365 人 (100%)	49 人 (13.4%)	293 人 (80.3%)	24 人 (6.6%)
発達科学部	4 人 (100%)	0 人 (0.0%)	2 人 (50.0%)	2 人 (50.0%)
法学部	178 人 (100%)	36 人 (20.2%)	120 人 (67.4%)	22 人 (12.4%)
経済学部	277 人 (100%)	16 人 (5.8%)	233 人 (84.1%)	28 人 (10.1%)
経営学部	257 人 (100%)	13 人 (5.1%)	225 人 (87.5%)	19 人 (7.4%)
理学部	171 人 (100%)	127 人 (74.3%)	40 人 (23.4%)	6 人 (3.5%)
医学部	255 人 (100%)	52 人 (20.4%)	196 人 (76.9%)	7 人 (2.7%)
工学部	564 人 (100%)	425 人 (75.4%)	124 人 (22.0%)	15 人 (2.7%)
農学部	159 人 (100%)	117 人 (73.6%)	40 人 (25.2%)	2 人 (1.3%)
海事科学部	203 人 (100%)	105 人 (51.7%)	89 人 (43.8%)	9 人 (4.4%)
合計	2,537 人 (100%)	953 人 (37.6%)	1,444 人 (56.9%)	143 人 (5.6%)

（主な進学先・就職先）（任意記載事項）

（備考）・割合・率は、小数点第２位を四捨五入。
・2023 年度 学部卒業者を対象とした学校基本調査を基に作成
・就職者数は、正規の職員等、正規の職員ではない就職者の総数のうち雇用計画が 1 年未満又は短時間勤務の者を除いた者の合計で、進学者のうち就職している者を含む。
・その他の数は、公務員試験受験者、司法試験・公認会計士等の資格試験受験者を含む。
・医学部の就職者数は、臨床研修医 120 人を含む。
・今年度より、国際文化学部は集計なし。

c. 修業年限期間内に卒業又は修了する学生の割合、留年者数、中途退学者数（任意記載事項）

学部等名	入学者数	修業年限期間内卒業者数	留年者数	中途退学者数	その他
	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
合計	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)

（備考）

⑤授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

（概要）
全授業科目においてシラバスを作成することとしており、医学部医学科を除いた学部で、教務情報システムを利用した統一様式によるウェブ化を行い、学内外に周知・公表している。
シラバスの項目は、以下のとおり。
①基本情報（科目分類、開講年次、時間割コード、開講区分、開講科目名、曜日・時限、主担当教員、単位数、授業形態、ナンバリングコード）
②詳細情報（授業のテーマ、授業の到達目標、授業の概要と計画、成績評価方法、成績評価基準、履修上の注意（関連科目情報）、事前・事後学修、オフィスアワー・連絡先、学生へのメッセージ、今年度の工夫、教科書、参考書・参考資料等、授業における使用言語、キーワード、参考 URL）

⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

（概要）
各学部が定めるカリキュラムポリシー・ディプロマポリシーに基づき、単位授与・履修認定について、厳格かつ適正に評価・認定を行うとともに、卒業又は修了の認定を行っている。

学部名	学科名	卒業又は修了に必要となる単位数	ＧＰＡ制度の採用（任意記載事項）	履修単位の登録上限（任意記載事項）
文学部	人文学科	132 単位	㊒・無	54 単位
国際人間科学部	グローバル文化学科	124 単位	㊒・無	49 単位
	発達コミュニティ学科	124 単位	㊒・無	49 単位
	環境共生学科	124 単位	㊒・無	49 単位
	子ども教育学科	124 単位	㊒・無	49 単位
法学部	法律学科	125 単位	㊒・無	46 単位
経済学部	経済学科	124 単位	㊒・無	50 単位
経営学部	経営学科	134 単位	㊒・無	49 単位
理学部	数学科	124 単位	㊒・無	50 単位
	物理学科	124 単位	㊒・無	50 単位
	化学科	124 単位	㊒・無	50 単位
	生物学科	124 単位	㊒・無	50 単位
	惑星学科	124 単位	㊒・無	50 単位
医学部	医学科	204 単位	㊒・無	55 単位
	保健学科	127～143 単位	㊒・無	55 単位
工学部	建築学科	124 単位	㊒・無	54 単位
	市民工学科	126 単位	㊒・無	54 単位
	電気電子工学科	126 単位	㊒・無	54 単位
	機械工学科	127 単位	㊒・無	54 単位
	応用化学科	129 単位	㊒・無	54 単位

	情報知能工学科	124 単位	㊒・無	54 単位
農学部	食料環境システム学科	126 単位	㊒・無	54 単位
	資源生命科学科	126 単位	㊒・無	54 単位
	生命機能科学科	126 単位	㊒・無	54 単位
海洋政策科学部	海洋政策科学科	124 単位	㊒・無	52 単位
海事科学部	グローバル輸送科学科	130 単位	㊒・無	52 単位
	海洋安全システム科学科	130 単位	㊒・無	52 単位
	マリンエンジニアリング学科	130 単位	㊒・無	52 単位
ＧＰＡの活用状況（任意記載事項）		公表方法：		
学生の学修状況に係る参考情報（任意記載事項）		公表方法： 学位の取得状況・進路状況・資格取得状況 （神戸大学 HP「教育情報の公表」URL：https://www.kobe-u.ac.jp/ja/about/public-information/education/student/）		

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

公表方法：ホームページ及び大学案内等パンフレットによる

【ホームページ】

https://www.kobe-u.ac.jp/guid/access/index.html

※キャンパスごとに施設位置・施設名を掲載

【大学案内】

https://www.office.kobe-u.ac.jp/stdnt-examinavi/documents/annai/index.html

【その他】

各学部の事務部において学部案内を希望者に配布している。

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

学部名	学科名	授業料（年間）	入学金	その他	備考（任意記載事項）
全学部全学科共通		535,800 円	282,000 円	円	

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

a. 学生の修学に係る支援に関する取組

（概要）

入学料・授業料免除制度の選考基準に基づき、適正な審査、選考を行うとともに、授業料免除や各種奨学金の申請に関する情報が十分伝わるよう、ウェブサイトや案内冊子の充実及び説明会の実施等を通じて周知を徹底している。日本学生支援機構の給付型奨学金の採用候補者及び在学採用申請予定者については、入学手続き時に所定の申請書を提出することで、判定結果が出るまで（最終期限は入学料は８月末、授業料は９月末）入学金及び前期分授業料等の徴収を猶予している。

また、学生寮は入居率70%前後の水準を維持しながら、経済的支援を必要とする学生が入居できるよう、適切な管理運営を行っている。 課外活動団体を対象として開催しているリーダーズトレーニングにおいて、部のリーダーとしての資質の向上を図るとともに、団体間の連携、意見交換を通して各部の一層の発展を支援している。 課外活動施設の修繕等を行い、課外活動の環境を整備している。
b.進路選択に係る支援に関する取組
（概要） キャリアセンターでは、学内のキャリア支援体制をネットワーク型で全学的に展開している。 各学部・研究科の就職委員会、各同窓会並びに大学生協、六甲台就職相談センター、学生団体、東京オフィス（キャリアセンター東京分室）、グローバル教育センター、産官学連携本部等の自発的な活動と連携を取り、様々な情報の発信や相互の行事告知協力などを行うとともに、各就職支援組織による意見交換会や情報共有を定期的に行いながら、他大学にはない独自の全学的キャリア・就職支援活動を行っている。 また、キャリア支援科目の授業開講により、「社会の中での自分の役割」や「職業や市民生活を通して社会に貢献する意味」を考えさせる教育まで踏み込んで行っている。これは現代社会のニーズに応えうる「人間性豊かな指導的人材」を輩出するために必要な取組である。 キャリアセンターにおける支援としては、キャリア・デベロップメント・アドバイザー（CDA）資格を持つアドバイザーが個別の進路・就職相談で指導・助言を行い、学生の主体的なキャリア選択をサポートしている。 また、CDA勉強会を定期的に開催し、キャリア支援の均質化、質の向上を推進している。
c.学生の心身の健康等に係る支援に関する取組
（概要） インクルーシブキャンパス＆ヘルスケアセンターでは、本学学生等の健康の保持、増進を図るとともに、多様な属性の違いを活かし、個々の能力を最大限に引き出すため、以下の支援を行っている。 ・保健管理部門（保健管理センター） 健康診断、健康相談（「からだの健康相談」、「こころの健康相談」）、保健指導、健康教育、THP（心と身体の健康づくり運動）による疾病の予防や早期発見対策、感染症対策、及び産業医活動を通じて、学生個々のみならず学生集団としての健康の保持増進に努め、修学を支援している。 ・障害学生支援部門（キャンパスライフ支援センター） 各部局と連携し、障害のある学生の合理的配慮が適切になされるために支援フローに則して支援内容や学内システムを改善するとともに、教職員及び学生の理解促進のためのワークショップや情報保障を行う学生サポーター養成のため PC ノートテイク等の研修会を実施している。また、学内のバリアを理解するために学生サポーターが学内調査活動を行っている。 ・ジェンダー平等推進部門（ジェンダー平等推進センター） 本学におけるジェンダー平等を推進するとともに、構成員のワークライフバランスの支援や LGBTQI+等の相談への対応を保健管理部門及び障害学生支援部門と協力して実施している。

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

公表方法：ウェブサイトにて公表 （https://www.kobe-u.ac.jp/campuslife/edu/education_info/index.html）

（別紙）

※ この別紙は、更新確認申請書を提出する場合に提出すること。

※ 以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄（合計欄を含む。）について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「－」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

学校コード（13桁）	F128110108654
学校名（○○大学 等）	神戸大学
設置者名（学校法人○○学園 等）	国立大学法人神戸大学

１．前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

		前半期	後半期	年間
支援対象者（家計急変による者を除く）		703人	695人	745人
内訳	第Ⅰ区分	413人	423人	
	第Ⅱ区分	184人	179人	
	第Ⅲ区分	106人	93人	
	第Ⅳ区分	0人	0人	
家計急変による支援対象者（年間）				― 人
合計（年間）				753人
（備考）				

※ 本表において、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分、第Ⅳ区分とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第４９号）第２条第１項第１号、第２号、第３号、第４号に掲げる区分をいう。

※ 備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

２．前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

（１）偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

年間	― 人

（２）適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が２年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が２年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修業年限で卒業又は修了できないことが確定	― 人	人	人
修得単位数が標準単位数の５割以下 （単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位時間数が標準時間数の５割以下）	0人	人	人
出席率が５割以下その他学修意欲が著しく低い状況	0人	人	人
「警告」の区分に連続して該当	人	人	人
計	― 人	人	人
（備考）			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の（２）のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であって、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遡って認定の効力を失った者の数

右以外の大学等		短期大学（修業年限が２年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が２年以下のものに限る。）			
年間	0人	前半期	人	後半期	人

（３）退学又は停学（期間の定めのないもの又は３月以上の期間のものに限る。）の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

退学	― 人
３月以上の停学	0人
年間計	― 人
（備考）	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

３．前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

停学（３月未満の期間のものに限る。）又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

３月未満の停学	0人
訓告	0人
年間計	20人

（備考）
年間計には、適格認定における学業成績の判定の結果、２回連続で「警告」となった場合のうち、２回目の「警告」がＧＰＡ等が学部等における下位４分の１の範囲に属したことにより「停止」となった者を含む。

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

４．適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が２年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が２年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修得単位数が標準単位数の６割以下 （単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位時間数が標準時間数の６割以下）	0人	人	人
ＧＰＡ等が下位４分の１	64人	人	人
出席率が８割以下その他学修意欲が低い状況	0人	人	人
計	64人	人	人

（備考）

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。